

---

---

# 若年女性無業者の 自立支援に向けた 生活状況調査報告書

2009年3月

(財)横浜市男女共同参画推進協会

[www.women.city.yokohama.jp/](http://www.women.city.yokohama.jp/)

---

---

# 目 次

|                           |    |
|---------------------------|----|
| I 検討会の実施について              | 2  |
| II 調査の概要                  | 4  |
| III アンケート調査結果             |    |
| 1 回答者像について                | 7  |
| 2 仕事の経験について               | 13 |
| 3 生活上の体験について              | 16 |
| 4 現在と今後について               | 19 |
| 5 支援への要望                  | 23 |
| IV ヒアリング調査について            | 25 |
| V 座談会                     |    |
| 「若年女性無業者の自立支援に向けて何ができるのか」 | 26 |

## 資料編

|                          |    |
|--------------------------|----|
| I アンケート調査票               | 45 |
| II よこはま若者サポートステーション男女別統計 | 51 |
| III 講座チラシ                | 53 |

## I 検討会の実施について

(財)横浜市男女共同参画推進協会では、設立当初から男女共同参画センターの事業として女性の再就職講座を柱に据え、また、ここ数年は母子家庭の母親やDVの被害を受けた女性など経済的に困難な状況にある女性の就業支援講座や起業支援講座、さらには各種就業相談など、女性の就業支援事業に力をいれてきた。そのいっぽうで、10代、20代の若い女性を対象とした事業は、就業支援のみならず、他の分野の事業もほとんど手がつけられてこなかった。

近年、若い世代のひきこもり、ニート、フリーターなどの不労が大きな社会問題となっており、国や地方自治体でもようやくこうした若者への就労支援事業を実施し始めたところである。しかし、社会問題として焦点が当てられるのは主に男性の無業者、あるいは非正規で働く人たちで、統計的には無業の、あるいは非正規で働く女性も少なくないにもかかわらず、若い女性たちの現状を的確に把握することはほとんど行われていないといっている状況である。

若い女性の課題解決に結びつく事業へのニーズは潜在的にはたいへん大きいと思われ、横浜市男女共同参画推進協会では、若い女性、とくに生活困難や経済的な困難を抱える若い女性を対象とした事業を男女共同参画センターで展開していくことの必要性を痛感している。横浜市の「よこはま男女共同参画行動計画」(2006～2010年)にも「女性の若年無業者の自立支援」は施策の1つとして盛り込まれており、自治体としても現代社会の新しい課題として位置づけていることがわかる。

実際に事業を企画・実施するためには、対象となる若い女性たちの困難な状況やその背景、さらに彼女たちが直面している課題や将来への希望などの把握が不可欠である。そこで調査に先立ち、困難な状況にある若い世代の自立、就業支援などの分野で先駆的な活動を担ってきたNPO法人等の支援機関をはじめ、関係機関の協力を得て「**若年女性無業者の自立支援に向けた生活状況調査検討会**」を実施した。

検討会のメンバーは次ページのとおりである<sup>1</sup>。

---

<sup>1</sup> 横浜市内で若者の就労支援に取り組む団体、困難な状況にある女性への支援を行っている企業(マイクロソフト(株))、同時期に「生活困難を抱える男女に関する検討会」を立ち上げ調査を実施していた内閣府男女共同参画局調査課、横浜市の男女共同参画に関する所管課の方々に構成した。

### 若年女性無業者の自立支援に向けた生活状況調査検討会

| 名 前    | 所 属 団 体                                  |
|--------|--|
| 有吉 晶子  | NPO法人ユースポート横濱(よこはま若者サポートステーション)<br>臨床心理士 |
| 田中 恭子  | (株)K2インターナショナルジャパン(若者自立塾Y-MAC)<br>社会福祉士  |
| 田仲 愛   | マイクロソフト(株)社会貢献部 社会貢献コーディネーター             |
| 山岡 由加子 | 内閣府男女共同参画局調査課 男女共同参画分析官                  |
| 齋藤 真美奈 | 横浜市市民活力推進局男女共同参画推進課 担当係長                 |
| 桜井 陽子  | (財)横浜市男女共同参画推進協会 理事                      |
| 小園 弥生  | (財)横浜市男女共同参画推進協会事業企画課 調査事務局担当            |

検討会を開催した期間は2008年6月から2009年3月であり、以下のような内容で実施した。

■第1回 2008年6月20日

検討会と調査の目的の確認、横浜市内の若者サポート機関利用者の状況等ヒアリング(よこはま若者サポートステーション、若者自立塾Y-MAC)

■第2回 2008年7月15日

調査の対象層と対象層へのアプローチ、質問項目についての検討

■第3回 2008年8月8日

調査票の内容、配布と回収についての検討

■第4回 2008年12月17日

調査結果についての概要報告と、まとめ方についての検討

■第5回 2009年3月3日

調査報告書のまとめに向けた座談会を実施

## Ⅱ 調査の概要

### 1 調査対象

今回の調査では、「15歳以上35歳未満の、学校や職場に属していない女性」とした。母子家庭の母親については各種調査データがすでに存在していることから対象外とし、子どもがいない、シングル女性を対象として本調査を行った。

### 2 調査方法

「学校や職場に属していない、若年女性」が対象者であることから、若年層への就労支援や居場所支援等を行っている機関・団体を窓口としてアンケート調査を行った。

具体的には、横浜市内（一部神奈川県・東京都内）で就労支援や居場所支援を実施している機関・団体の窓口（受付等）に、返信用封筒を添付した調査票を置き、窓口を訪れた人に自由に持ち帰ってもらうという方法をとった。返信用封筒は料金受取人払いのものにし、回答者に直接投函してもらった。

その際、アンケートの趣旨を説明したポスターを調査票の近くに掲示し、さらに窓口の担当者から該当者（と思われる女性）に調査への協力をお願いするというも行った。ただし、ハローワークの窓口などでは、担当者が利用者の婚姻状況、子どもの有無等について詳細に把握しているわけではないので、該当者ではない人が調査票に回答するというケースもみられ、事務局へ返信された調査票から、夫や子どもと同居していると回答した票は有効回答から除外した。

### 3 調査期間

2008年10月1日～11月30日

当初10月31日までの1ヶ月間を調査期間としたが、回収数が少なかったため、期間を1ヶ月間延長した。

### 4 調査項目

| 調査項目       | 設問  |
|------------|---|
| 1 回答者像について | (1) 年齢【Q1】<br>(2) 同居の家族【Q2】<br>(3) 最終学歴【Q3】<br>(4) 大切なもの【Q4】<br>(5) 不安なこと【Q5】 |

|              |  |
|--------------|--|
| 2 仕事の経験について  | (1) 働いた経験【Q6】<br>(2) 経験した仕事の内容【Q6-1】<br>(3) 現在の就労状況【Q7】<br>(4) 収入【Q8】                  |
| 3 生活上の体験について | (1) 困難な体験【Q9】<br>(2) ほっとできる場所【Q10】   |
| 4 現在と今後について  | (1) 苦手だと思うこと【Q11】<br>(2) 家計【Q12】<br>(3) 性別役割分業についての考え方【Q13】<br>(4) 今後の理想の暮らし方・生き方【Q14】 |
| 5 支援への要望     | (1) 利用したい相談先やサポート【Q15】<br>(2) ほしいサポートについて【Q16】   |

## 5 配布および回収状況

### 【預け置き数と実配布数】

若年層への就労支援や居場所支援等を行っている機関・団体へ合計700の調査票を預け、そのうち、実際に対象者（と思われる人）に配布された数は391であった。

|            | 配布場所                                       | 預け置き数 | 実配布数 |
|------------|--|-------|------|
| 就労支援機関     | ハローワーク横浜                                   | 250   | 219  |
|            | ハローワーク藤沢（茅ヶ崎市地域職業相談室）                      | 10    | 4    |
|            | かながわ若者就職支援センター                             | 100   | 50   |
|            | よこはましごと支援センター                              | 15    | 0    |
| 就労&生活支援機関  | よこはま若者サポートステーション                           | 100   | 45   |
|            | 若者自立塾Y-MAC                                 | 50    | 15   |
| 当事者支援グループ  | NPO法人フリースペースたまりば（川崎市）                      | 10    | 16   |
|            | NPO法人ニュースタート（東京都）                          | 10    |      |
|            | 有限責任事業組合フリーターズフリー（東京都）                     | 10    |      |
|            | 日本アノレキシア（拒食症）・プレミア（過食症）協会【自助グループNABA】（東京都） | 15    |      |
| 青少年支援施設    | 横浜市青少年交流センター                               | 20    | 8    |
| 男女共同参画センター | 男女共同参画センター横浜                               | 110   | 34   |
|            | 男女共同参画センター横浜南                              |       |      |
|            | 男女共同参画センター横浜北                              |       |      |
| 合計         |  | 700   | 391  |

### 【回収数】

実配布数 391 のうち、回収数は 55 であった。なお、回答者には入手先は問うておらず、不明である。

### 【有効回答数】

回収した 55 のうち、夫や子どもがいるなどの回答者を除いた有効回答は 46 であった。実配布数のうちの有効回答率は、11.7%。

## 6 調査結果のまとめ方

回収数が少なかったが、設問ごとに統計的な集計・分析を行い、一定の傾向を把握することとした。加えて、「仕事の経験」については、これまでどのような経験を重ねてきたかを把握することとした。

また、「その他」等に記入された記述による回答については、個人情報保護の観点から固有名詞など具体的過ぎる記述を除き本人の記述どおりに表記した。

なお、本報告書のタイトルは問題を明らかにする意味で「若年女性無業者の自立支援に向けた生活状況調査報告書」とした。が、実際にアンケート等の調査を行う過程では、調査票でも検討会の名称においても「無業者」という語は使用していなかった。本文との齟齬があるのはそのためであることを付け加えておきたい。

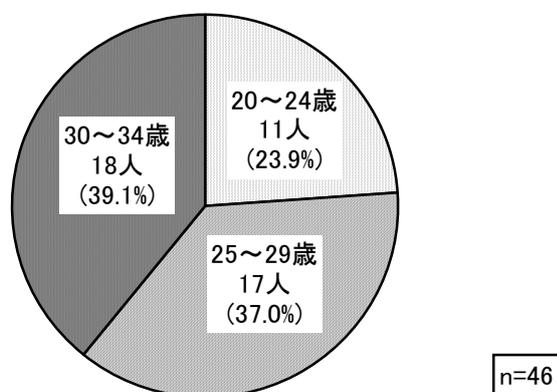
### Ⅲ アンケート調査結果

#### 1 回答者像について

##### (1) 年齢

調査の対象者は、15歳以上35歳未満の女性としたが、結果として10代の回答者はいなかった。多い順に、「30～34歳」が18人(39.1%)、「25～29歳」が17人(37.0%)、「20～24歳」が11人(23.9%)であった(図表1)。

図表1：回答者の年齢

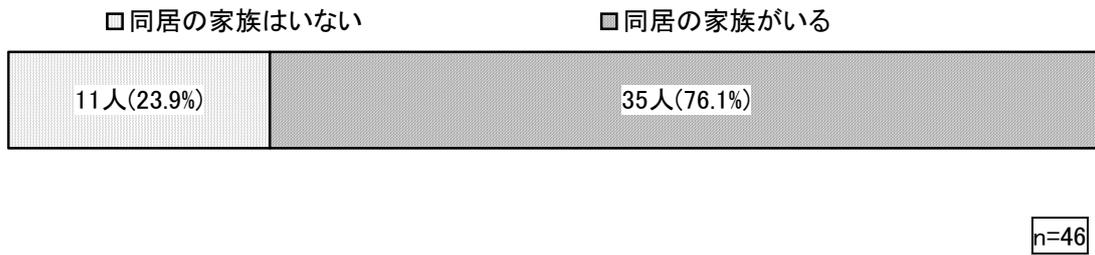


##### (2) 同居の家族

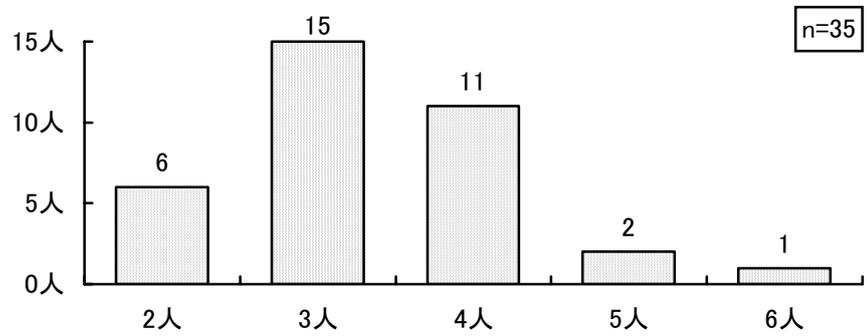
「同居の家族はいない」人が11人(23.9%)、「同居の家族がいる」人が35人(76.1%)であった(図表2)。「同居の家族はいない」と答えた人の中には若者自立塾に入寮中と思われる人もいた。

家族と同居している35人の内訳は、自分を含めて「3人家族」がもっとも多く、15人(42.9%)であった(図表3)。どのような家族と同居しているかについては、「母」が32人(91.4%)、「父」が27人(77.1%)で、両親と同居している人が多い(図表4)。個票によりさらに見ると、母あるいは父とのひとり親家庭と思われる人が8人いた。

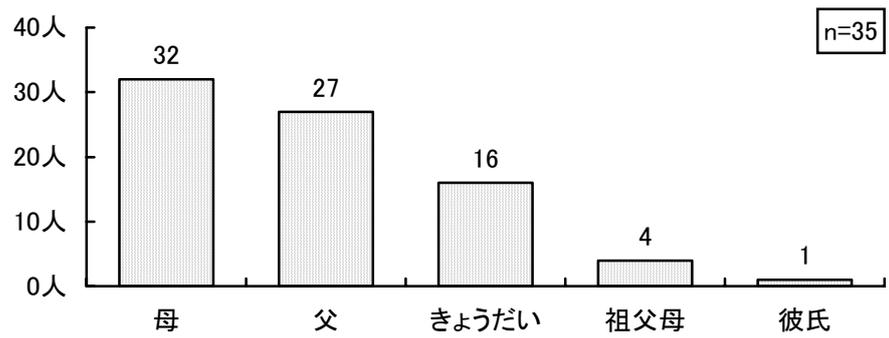
図表 2 : 同居の家族



図表 3 : 同居している家族の人数 (自分を含む)



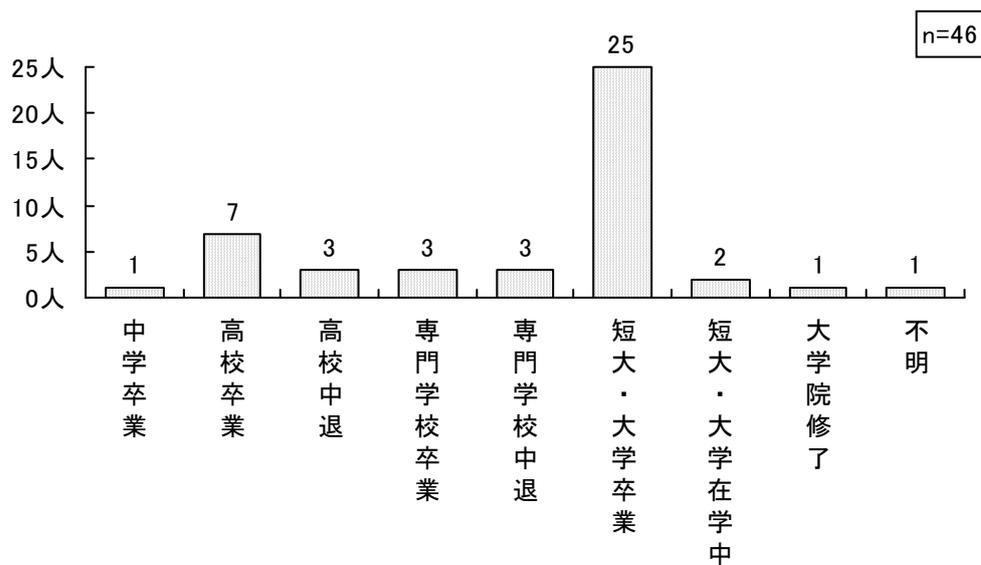
図表 4 : 同居している家族



### (3) 最終学歴

「短大・大学卒業」が25人(54.3%)と過半数を占めた。次いで、「高校卒業」が7人、「高校中退」と「専門学校中退」があわせて6人(13.0%)であった(図表5)<sup>2</sup>。

図表5：回答者の最終学歴



<sup>2</sup> 2008年3月の18歳人口における女性の大学・短大進学率は54%、現在30歳の女性が18歳の時点(1996年)での大学・短大進学率は48%である。(文部科学省「学校基本調査」)

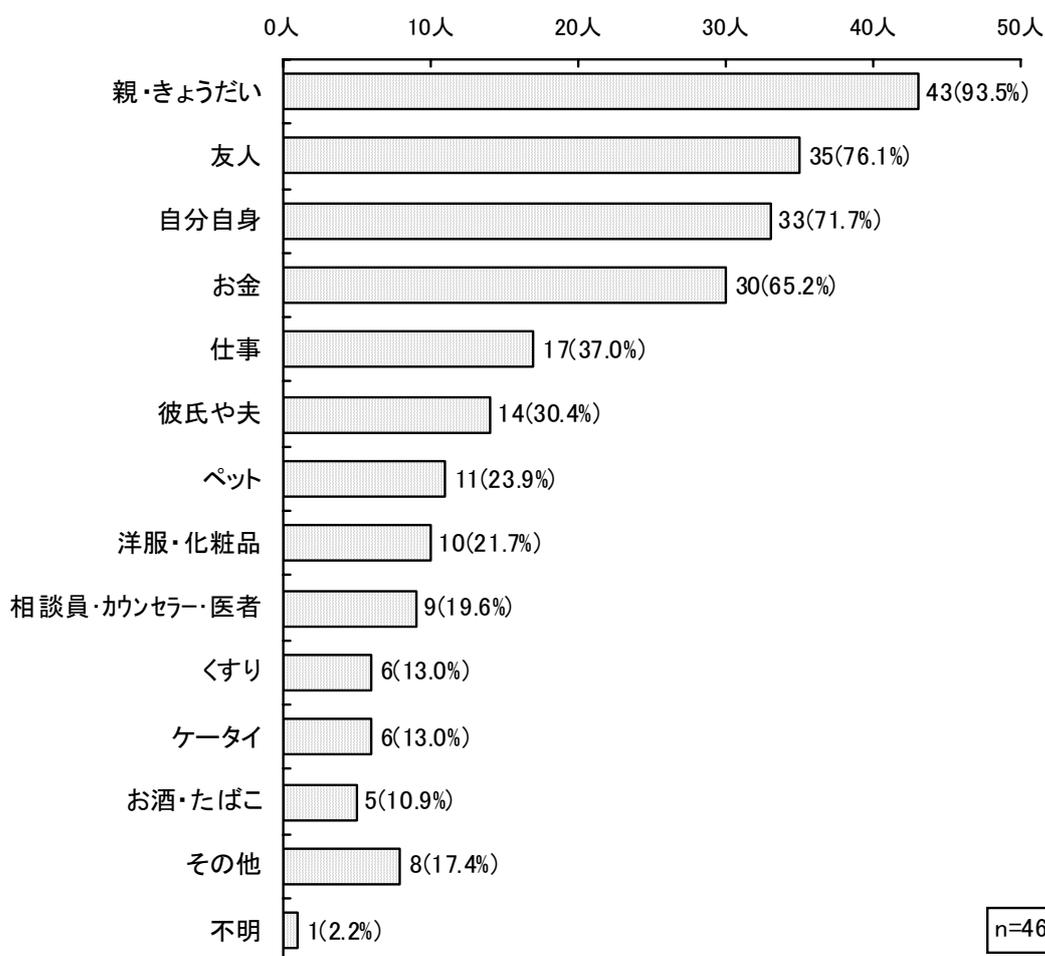
#### (4) 大切なもの

「今のあなたにとって大切なものはなんですか」という問いに対しては、ほとんどの人が「親・きょうだい」(43人、93.5%)と答え、以下、「友人」(35人、76.1%)、「自分自身」(33人、71.7%)、「お金」(30人、65.2%)の順に回答が多かった。「相談員・カウンセラー・医者」「くすり」「ケータイ」「お酒・たばこ」という回答もそれぞれ1割以上ずつあった(図表6)。

「その他」としては、「趣味」、「自助グループ活動」、「ネット」などの記述に加え、「同志」、「世界平和」というものがあった(図6)。

また、大切なもののうち、「とくに大切なもの」を1つあげてもらったが、これに回答した25人のうち「自分自身」と答えた人がもっとも多く、7人であった。

図表6：大切にしているもの(複数回答)

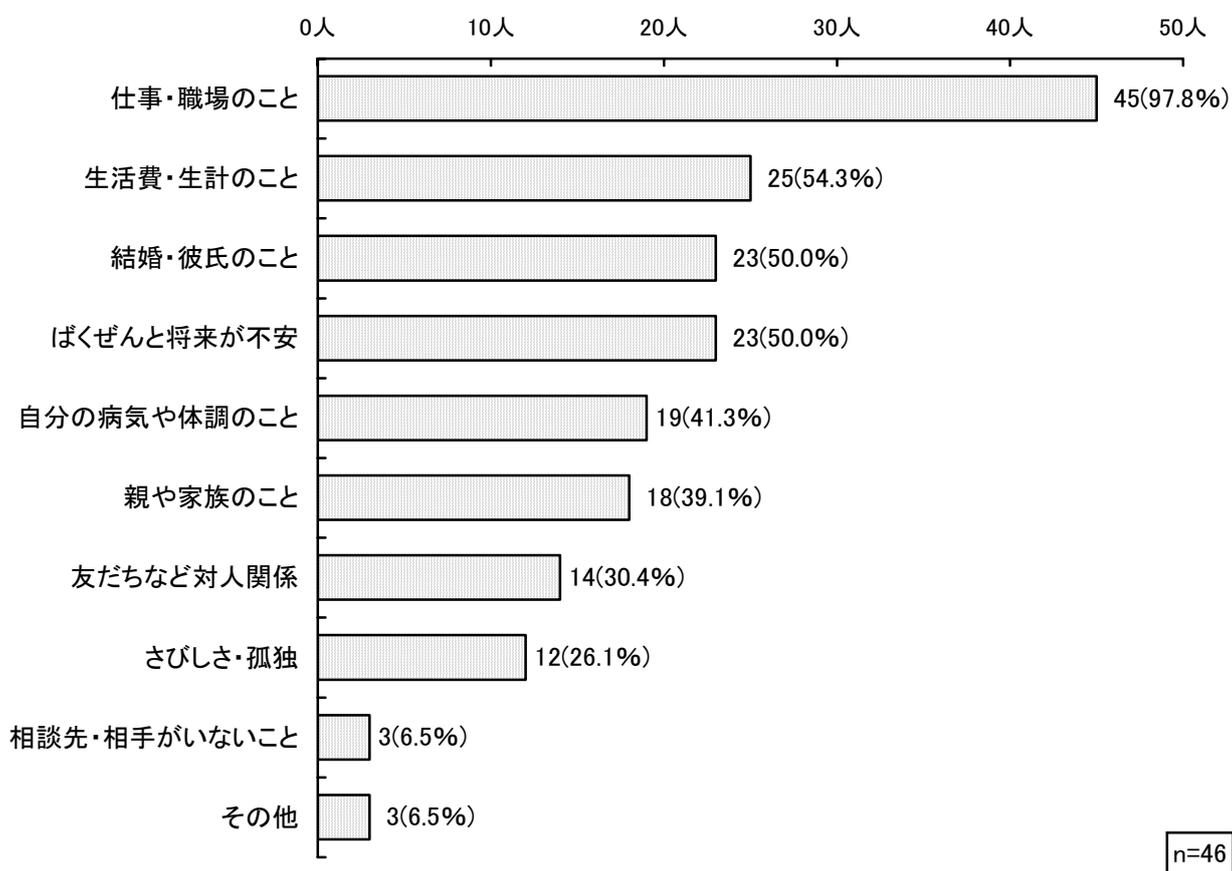


## (5) 不安なこと

「今のあなたにとって不安なことはなんですか」という問いに対しては、46人中45人(97.8%)が「仕事・職場のこと」と回答した。次いで、「生活費・生計のこと」25人(54.3%)、「結婚・彼氏のこと」23人(50.0%)、「ばくぜんと将来が不安」23人(50.0%)と続く(図表7)。

「その他」では、「自分がひきこもり続けていくこと」「結婚したいのに相手探しができない。仕事探もしないといけないという思い・・・将来像が描けない」などがあつた。

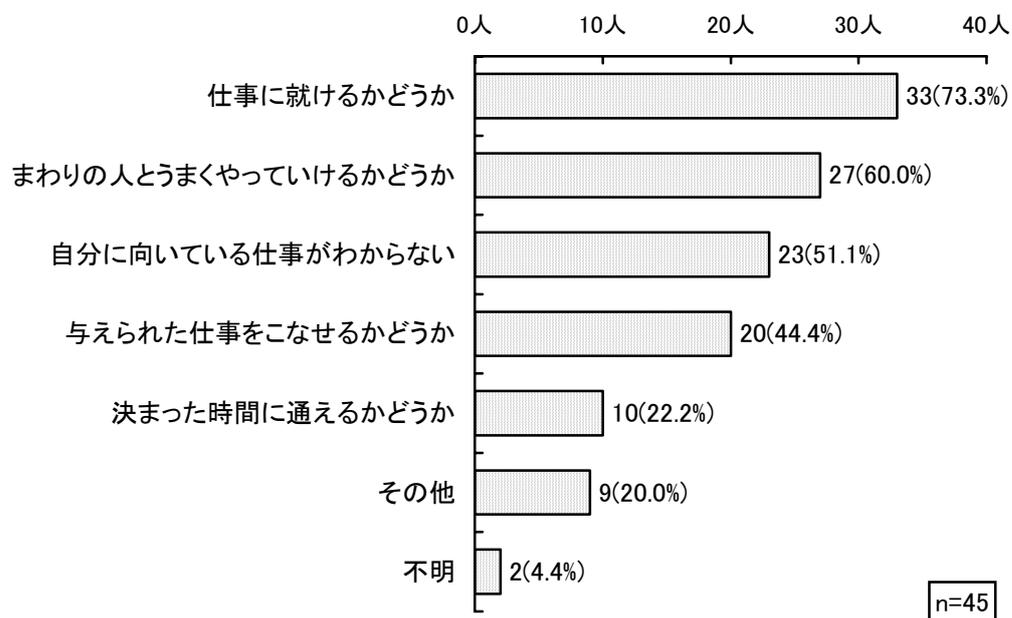
図表7：不安なこと（複数回答）



「仕事・職場のこと」が不安であると回答した45人に、さらに、「仕事・職場のどんなことが不安か」という問いを重ねたところ、「仕事に就けるかどうか」33人(73.3%)、「まわりの人とうまくやっていけるかどうか」27人(60.0%)、「自分に向いている仕事かわからない」23人(51.1%)、「与えられた仕事をこなせるかどうか」20人(44.4%)の順に回答が多かった。仕事にかんする不安以外に、「まわりの人とうまくやっていけるかどうか」と、対人関係への不安をかかえる人が半数を超えていた(図表8)。

「その他」では、「対人関係」「専門学校に受かるかどうか」「体力的についていけるか」「どのくらい続けられるかどうか」「結婚後本当に続けられるのかと、上司からいやみのように聞かれるのかどうか」「体制などきちんとした会社を見つけられるか、入れるか」「今の仕事で生活できる収入がないこと」「資格はあるが他の職に就きたい」など、具体的に切実な不安があげられている。

図表8：仕事・職場の不安について

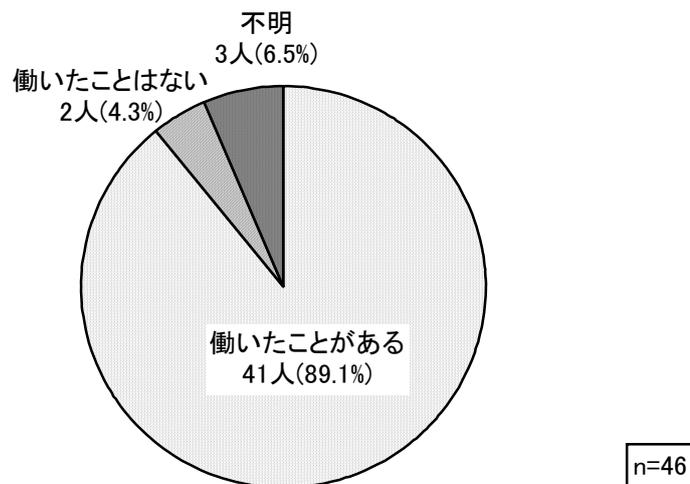


## 2 仕事の経験について

### (1) 働いた経験

46人中41人(89.1%)が「働いた経験がある」と答え、「働いたことがない」と答えた人は2人のみであった(図表9)。

図表9：働いた経験の有無



### (2) 経験した仕事の内容

働いた経験のある人41人に、これまで経験した仕事の内容をたずねたところ、40人から回答があった。40人が経験した仕事は全部で120件。1人平均3.0件の仕事を経験していることになる。もっとも多い人で7つの仕事を経験していた。雇用形態別に特徴をまとめたものが、図表10である。

図表 10 雇用形態別働き方の特徴

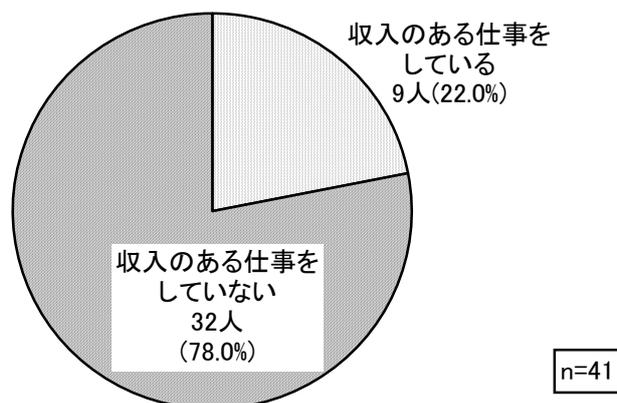
|  |
|--|
| <b>■社員</b>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 40 人中 24 人 (60.0%) が「社員」を経験している。ただし、必ずしも「正社員」とは限らず、少数だが「契約社員」などの場合も含まれている。</li> <li>・ 件数は 33 件。</li> <li>・ 職種は一般事務、営業、経理、医療事務、幼稚園教諭、美容師、レストランマネジャー、塾講師、飲食店、販売、ホテル接客、歯科助手など多岐にわたる。</li> <li>・ 在職期間は 33 件のうち 20 件 (60.6%) が 2 年以上であった。</li> <li>・ 社員を経験していても、他の雇用形態も経験している人が多い。</li> </ul>  |
| <b>■派遣</b>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 40 人中 13 人 (32.5%) が「派遣」を経験している。ただし、「派遣社員」ばかりでなく、倉庫内作業などの場合の「日雇い派遣」も含まれる。</li> <li>・ 件数は 18 件。</li> <li>・ 職種はデータ入力&amp;チェック、学校給食、営業事務、一般事務、医療機器検品、テレフォンオペレーター、経理補助、DTPデザイン、医療事務、翻訳、倉庫内作業など。</li> <li>・ 在職期間は社員と比べて短く、18 件のうち 9 件 (50.0%) が 3 ヶ月以内であった。いっぽう、1 年以上というケースも 6 件 (33.3%) あった。</li> </ul>   |
| <b>■アルバイト</b>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 40 人中 29 人 (72.5%) が「アルバイト」を経験しており、経験者はもっとも多かった。</li> <li>・ 件数は 67 件。</li> <li>・ 具体的な職場・職種は多様である。コンビニエンスストア、年末年始の郵便局、葬儀屋事務、営業事務、飲食店ウェイトレス、ファストフード店、食品レジ、ドラッグストア、パチンコホール、ホームセンター、スポーツジム、デパートでの菓子販売、ジェラート販売、洋服販売、CDショップ、花屋、酒屋、整体受付、テレフォンオペレーター、パン工場クルー、洋菓子製造、工場の品質管理、日雇い、クリーニング工場、学習塾回答添削、学童保育、自助グループスタッフ、ウェブデザイン、病院の清掃、花農家など。</li> <li>・ 在職期間は 67 件のうち 20 件 (29.9%) が 3 ヶ月以内であった。</li> <li>・ いっぽう、2 年以上に及ぶケースも 15 件 (22.4%) あり、アルバイトだから必ずしも短期間とは言えない現状がある。その職場はコンビニエンスストア、ドラッグストア、フードコート、コーヒー店、飲食店ホール、酒屋など、接客業がほとんどである。</li> <li>・ アルバイトでしか働いたことがない人が 12 人おり、そのうち 5 人が 5 種以上の職場を経験している。</li> </ul> |
| <b>■フリー・その他</b>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「フリー」ではネイリスト、「その他」では“非常勤の学童保育スタッフ”と記入した人が各 1 人いた。</li> </ul>  |

### (3) 現在の就労状況

働いた経験のある人 41 人に、現在の就労状況をたずねた<sup>3</sup>ところ、「現在収入のある仕事をしている」人は9人(22.0%)であった(図表 11)。

その具体的な仕事は、「コンビニと飲食店(かけもちアルバイト)」、「タイ料理店(アルバイト)」、「デパート(アルバイト)」、「学童保育スタッフ」、「DTPデザイナー(派遣社員)」、「広告プロダクション(社員)」、「一般事務員(社員)」、「整体師」、「受付案内(アルバイト)」となっている。

図表 11 : 現在の就労状況



<sup>3</sup> 「若年“無業”女性」を対象にした調査にもかかわらず、「現在の就労状況」をたずねたのは、調査に先立つ関係機関からの聞きとりや検討会での意見交換から、彼女らが現在働いているといってもその仕事は短期間の不安定雇用が多く、就労している状態と就労していない状態が断続的に繰り返されるということが把握されたためである

#### (4) 収入

これまででもっとも収入のよかった仕事と悪かった仕事についてたずねたところ、11人から回答が得られた。その内容は次のとおりである（図表 12）。

図表 12：もっとも収入のよかった仕事、悪かった仕事

| もっとも収入のよかった仕事 | 金額         | もっとも収入の悪かった仕事 | 金額       |
|---------------|------------|---------------|----------|
| コンビニ(バイト)     | 時給 870 円   | 飲食店(バイト)      | 時給 850 円 |
| タイ料理(バイト)     | 時給 1,000 円 | コーヒー店(バイト)    | 時給 850 円 |
| 入力ミスチェック(派遣)  | 時給 1,000 円 | 食品レジ(バイト)     | 時給 650 円 |
| データ入力(派遣)     | 時給 1,530 円 | 販売(バイト)       | 時給 850 円 |
| DTP デザイナー(派遣) | 時給 1,600 円 | 接客スタッフ(バイト)   | 時給 800 円 |
| 婦人服販売(社員)     | 月給 23 万円   |               |          |
| 幼稚園教諭         | 月給 23 万円   |               |          |
| 美容師(社員)       | 月給 23 万円   | テレアポ(バイト)     | 時給 850 円 |
| 一般事務(社員)      | 月給 15 万円   | 学童保育(非常勤)     | 月給 3 万円  |
| 一般事務(社員)      | 月給 25 万円   |               |          |
| 一般事務(社員)      | 月給 18 万円   | 一般事務(バイト)     | 時給 800 円 |

### 3 生活上の体験について

#### (1) 困難な体験

今回の調査では、生育歴における困難な体験について「あなたはこれまで次のような体験がありますか(答えにくい質問にはむりに答えず、パスしてけっこうです)」とたずねた。

もっとも多かった回答は、「職場の人間関係でトラブルがあった」26人(56.5%)で過半数の人が体験しているほか、「学校でいじめられた」20人(43.5%)、「精神科またはメンタルクリニックに通院した」20人(43.5%)、「1ヶ月以上、薬をのんでいた」19人(41.3%)、「親など家族からの支配、期待がとても重荷だった」17人(37.0%)、「食べ吐き・過食・拒食などがあった」15人(32.6%)の順に回答が多かった。

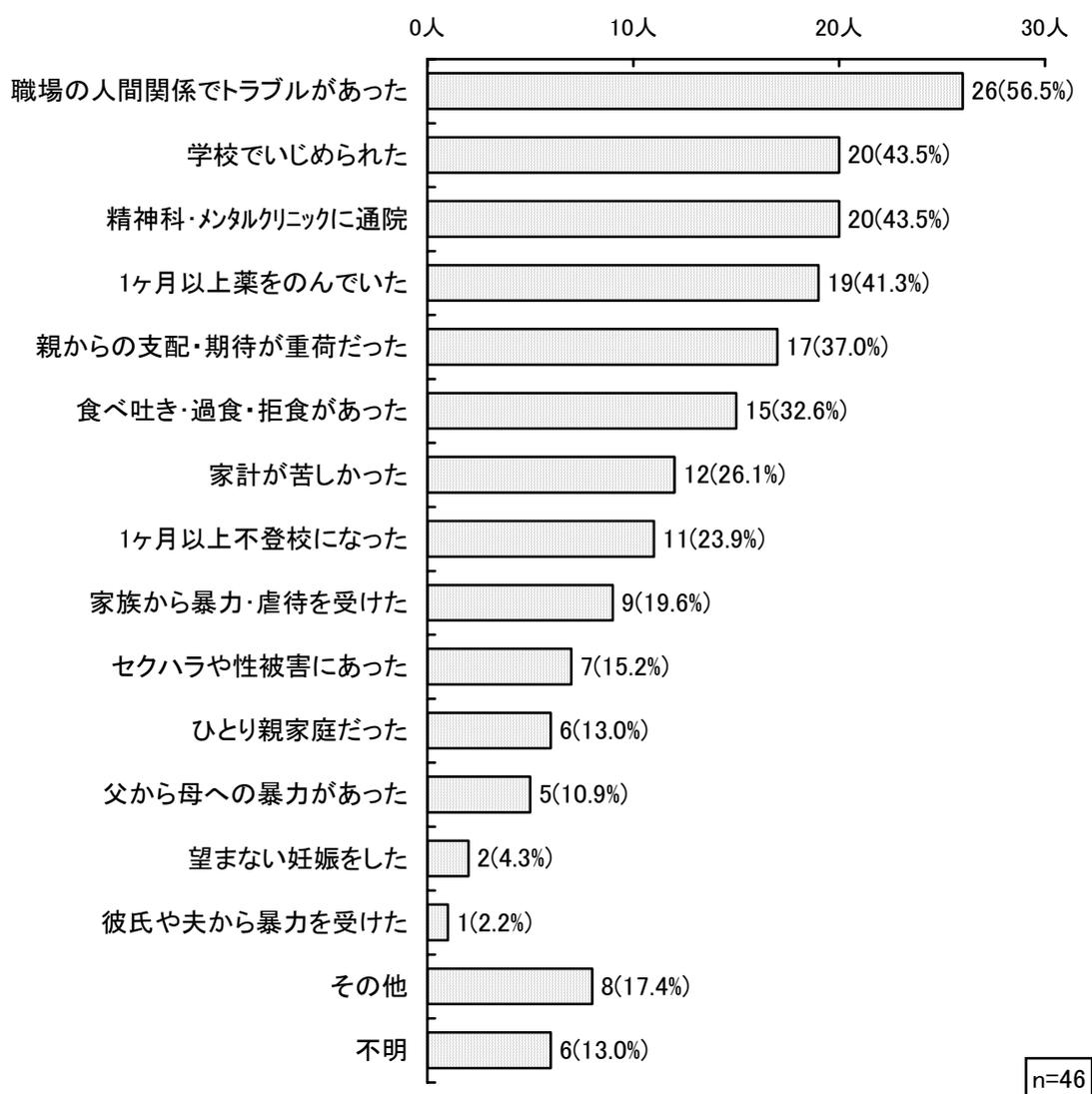
また、「(病気やけが以外で)1ヶ月以上不登校になった」人が46人中11人(23.9%)、

「親・きょうだいなど家族からの暴力・虐待を受けた」人が9人（19.6%）、さらに「セクシュアル・ハラスメントや性被害にあった」人も7人（15.2%）もあった。

「その他」に記述されたものとしては、「家族崩壊」、「父のギャンブル・借金・自殺」、「母の自殺」、「中学生の頃ストレスで胃潰瘍」、「飲酒によるブラックアウト」、「パワーハラスメント」、「薬物依存」、「職場でいじめにあった」があった。

この設問では、46人の回答者が体験したことの合計は「その他」を除いても、184にもものぼり、1人平均4項目に○がつくなど、重層的に困難な体験をしていることがうかがわれた（図表13）。

図表13：これまでに体験のあるもの（複数回答）



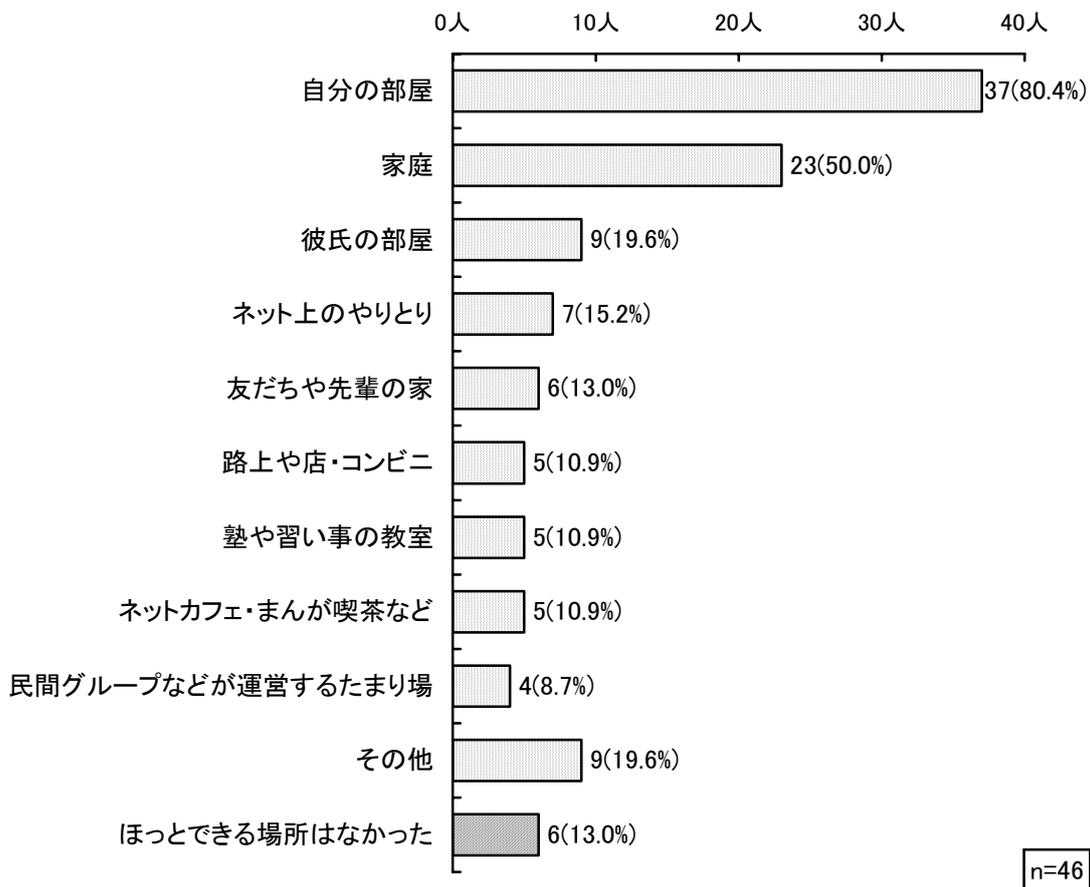
## (2) ほっとできる場所

「あなたがほっとできる場所はどこですか」の設問には、「自分の部屋」37人(80.4%)と「家庭」23人(50.0%)という回答が多かった。数は多くはなかったが、「ネット上のやりとり」7人(15.2%)、「ネットカフェ・まんが喫茶など」5人(10.9%)、「路上や店・コンビニ」5人(10.9%)といった回答も一定の割合でみられた。

「ほっとできる場所はなかった」と答えた人も6人(13.0%)いた。

「その他」に記された場所としては、「公園」「図書館」「自助グループ」「よこはま若者サポートステーション」「ヤングジョブスポット」「通院中のメンタルクリニック」「心理相談室」「コーヒーショップ」「友だちと会っているとき」「宗教団体」等があがった。(図表14)。

図表 14：ほっとできる場所（複数回答）

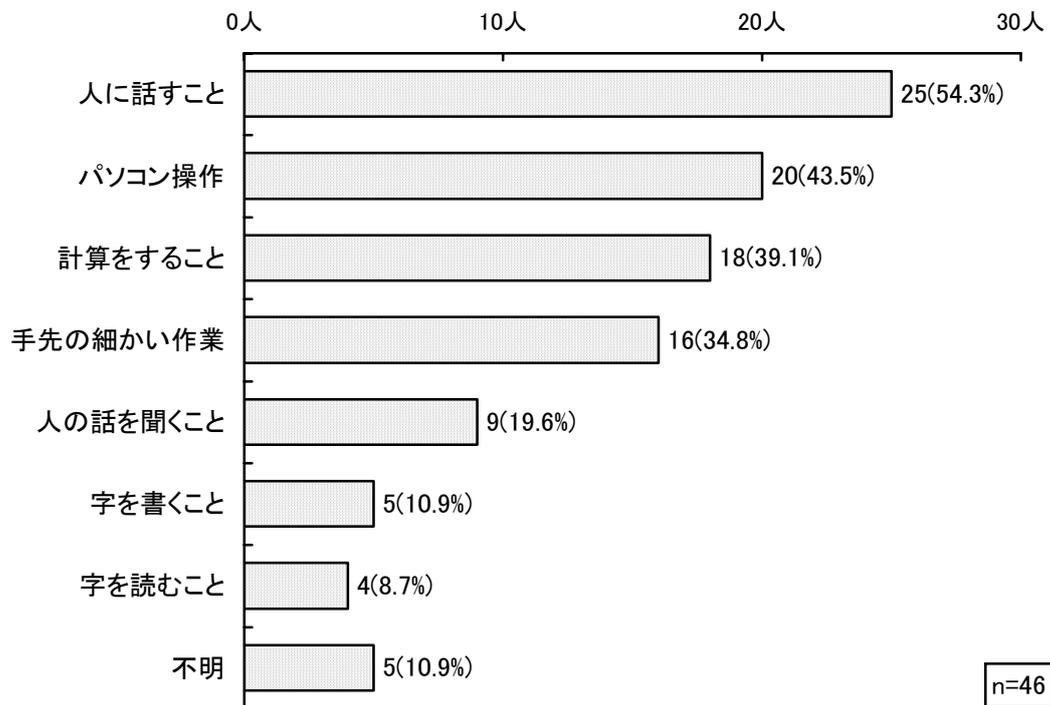


## 4 現在と今後について

### (1) 苦手だと思うこと

苦手だと思うことをいくつでもあげてもらったところ、「人に話すこと」25人(54.3%)に次いで、「パソコン操作」20人(43.5%)があがった。「計算をすること」18人(34.8%)、「手先の細かい作業」16人(34.8%)なども苦手なこととしてあげられている(図表15)。

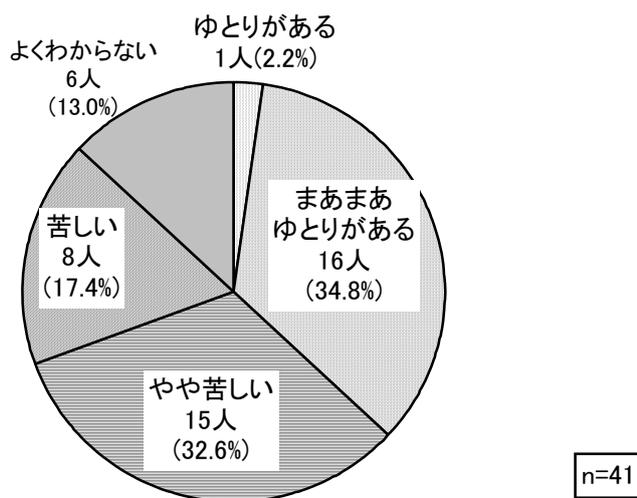
図表15：苦手だと思うこと（複数回答）



## (2) 家計

現在の家計の状況については、「やや苦しい」「苦しい」をあわせて23人(50.0%)、「ゆとりがある」「まあまあゆとりがある」をあわせて17人(37.0%)という結果であった。家計の状況について「よくわからない」という人も6人(13.0%)いた(図表16)。

図表16：家計の状況



### (3) 性別役割分業についての考え方

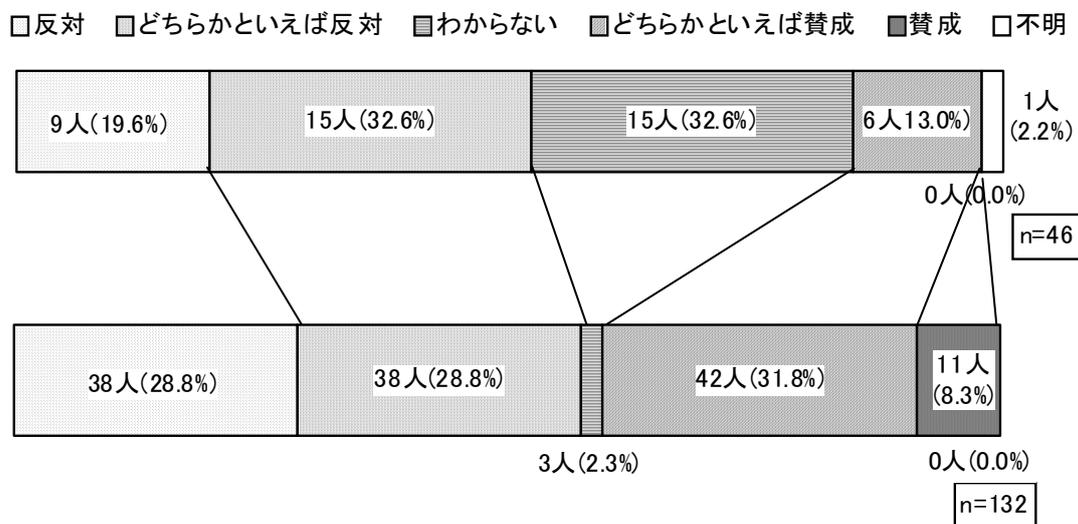
ここでは、「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という男女の性別役割分業についての考え方についてたずねた。

今回の調査では「反対」「どちらかといえば反対」をあわせて 24 人 (52.2%) であったが、「わからない」も 15 人 (32.6%) と多かった。「どちらかといえば賛成」が 6 人 (13.0%) で、「賛成」と回答した人が 0 人であった。(図表 17)。

いっぽう、内閣府調査で 20～29 歳女性の回答データでは、「反対」「どちらかといえば反対」をあわせて 57.6%、「わからない」が 2.3%、「賛成」「どちらかといえば賛成」をあわせて 40.1% であった (図表 18)。

今回の回答者の特徴として「わからない」という回答が 3 分の 1 と多かったこと、「賛成」「どちらかといえば賛成」が非常に少なかったことの 2 点があげられる。

図表 17【上】:「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方について (今回調査)



図表 18【下】:「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方について (内閣府調査)

出典: 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」2007年

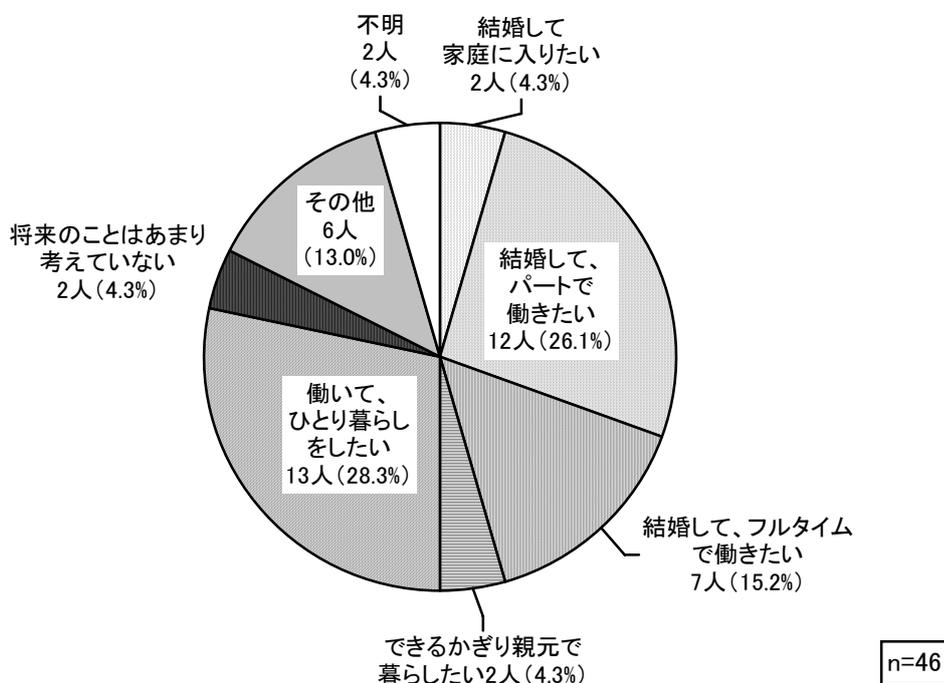
#### (4) 今後の理想の暮らし方・生き方

男女の性別役割分業についての考え方をたずねた設問に続き、それでは個人として、今後どのような暮らし方・生き方をするのが理想かをたずねた。

その結果は、「働いて、ひとり暮らしをしたい」13人(28.3%)という回答が一番多かった。続いて、「結婚して、パートなどで短時間働きたい」12人(26.1%)、「結婚して、フルタイムで働きたい」7人(15.2%)の順であった。「結婚して家庭に入りたい」2人(4.3%)、「できるかぎり親元で暮らしたい」2人(4.3%)は少数であった(図表19)。

「その他」として、「先のことはわからない」「理想なんて考えてられない。1ヶ月後生きてるのかどうかもわからない」「今したいことを思う存分にしたい」「できれば働きたい」「パートナーと相談して、その時々で状況でやっていきたい」「今好きな彼氏とうまく付き合いたい」「事実婚をして子どもは産まず、親に捨てられた子どもたちを養子にするか、里親になって困っている人を助けたい」という記述があった。

図表19：今後の理想の暮らし方・生き方



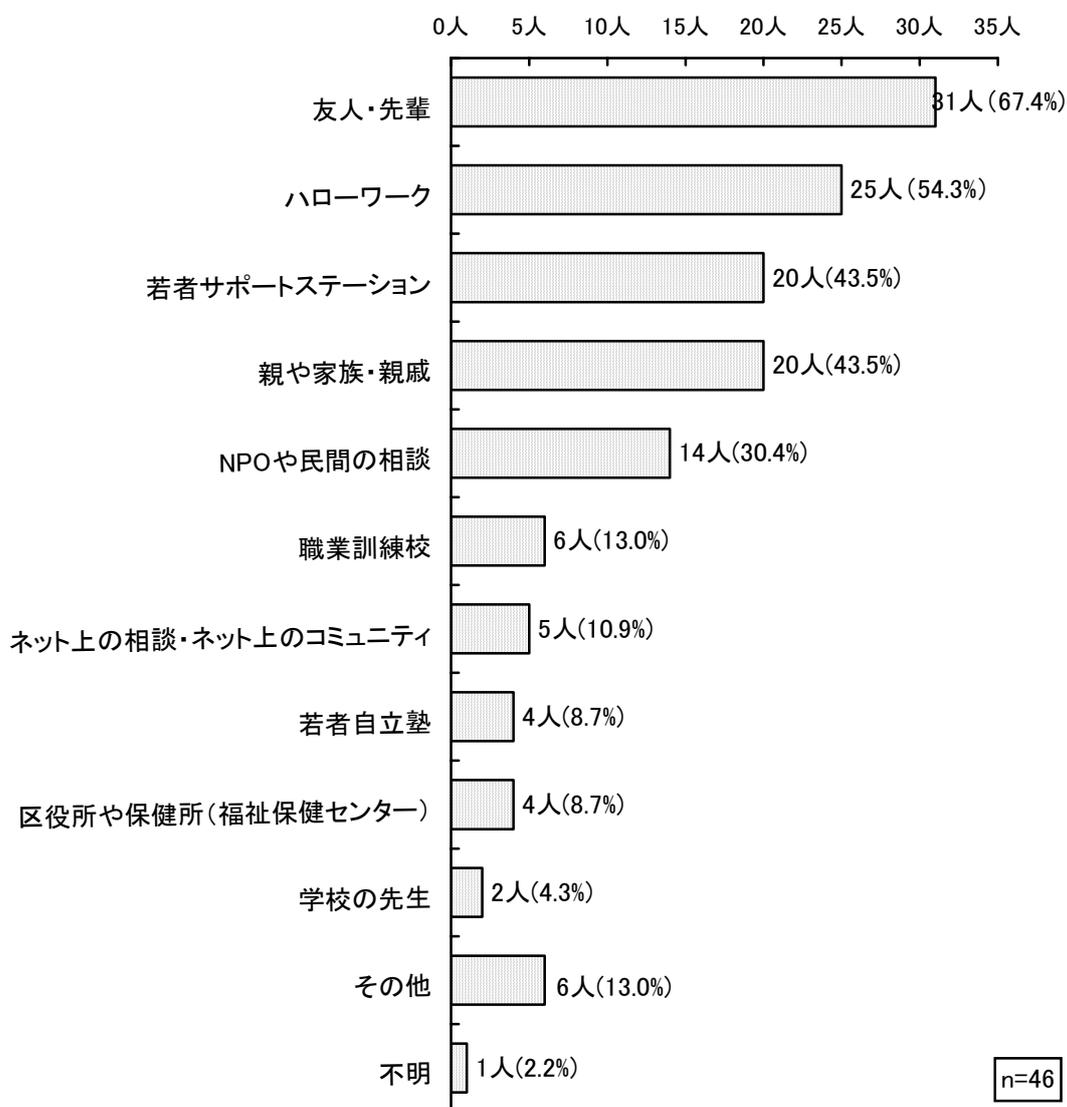
## 5 支援への要望

### (1) 利用したい相談先やサポート

今後、どのようなサポートが必要かをたずねた設問では、「友人・先輩」をあげる人が31人(67.4%)でもっとも多かった。次いで、「ハローワーク」25人(54.3%)、「若者サポートステーション」と「親や家族・親戚」がそれぞれ20人(43.5%)、「NPOや民間の相談」14人(30.4%)の順であった(図表20)。

「その他」としては、「彼氏」「カウンセラー」(以上、各2人)、「主治医」「求人誌」「公的(無料・低料金)な所で対面で相談できればどこでも」(以上、各1人)が記述されている。

図表20：利用したい相談先・サポート（複数回答）



## (2) ほしいサポートについて（自由記述）

最後に、「こんなサポートがあったらうれしい、というようなご意見・ご要望があれば、自由にお書きください」とした欄に、記述された内容は次のとおりであった。

- ・ 短期間で修了できるパソコンなどの講座があると嬉しい。
- ・ web の訓練を受講したい。
- ・ 働きながら高校に行くために、入学金や学費を卒業まで全額貸してくれるちゃんとした制度があったらよい。
- ・ 面接に行く際の履歴書、写真代、人によってはスーツ代も交通費を国や県、市が補助金として出して下さるとよい。
- ・ 仕事を探す時に、興味のある分野の職に入れるように紹介やアドバイス、受け入れ先などがあるかどうかを教えてくれるサポートがほしい。
- ・ 結婚して、フルタイムで働きたいので、家事をサポートしてくれるところが欲しい。
- ・ メディアによる一方的な若者バッシングを止めさせるよう法律で規制してほしい。
- ・ メンタルの悩みを抱えた方々のための性格分析ができる(性格志向がグラフなどで表わされる)機械または PC の設置。希望者が自分でそれを実践するような形式でやっていったら、何かしらの糸口が見えるのではないかな。
- ・ 幸せは、自分で選択していける気がするけれど、やっぱりお金も必要。ゆとりある生き方のためにお金になるサポートがほしい。
- ・ すぐにつながる命の電話がほしい。
- ・ 自分の居場所である自助グループに助成してくれるサポートがほしい。
- ・ もっといろいろな種類の自助グループがあるとよい。
- ・ 対人恐怖関連の自助グループや相談プログラムを探している。
- ・ 女性が集まって悩みをうちあけられるような場所がほしい。
- ・ 特に若者や女性が仕事をさがすとき、サポートが必要なときに気軽に行ける場がこれから増えてほしい。また、企業側もいろいろな人材を受け入れる体制があればいい。

以上

## IV ヒアリング調査について

アンケート調査票の最後に、「直接お話をうかがうことについて協力してもよいと思われる方は連絡先をお書きください」と記入欄をもうけ、さらに対面でのヒアリング調査を行うことを計画した。その結果、有効回答者46人中9人が携帯電話番号、メールアドレスなどの連絡先を記入してくれた。

しかし、連絡してみると不達メールになってしまうもの等もあり、実際にやりとりできたのは2人のみ、面接できたのは1人のみであった。ヒアリング開始時に、調査対象者の権利などを記した同意書にサインをいただき、ヒアリングを行った。お話を聞いた内容を個人が特定できない形で以下に記載する。

### ◎20代後半の女性Aさん

聞き手：調査事務局スタッフ

場所：男女共同参画センター横浜内

時期：2009年1月 時間：70分

聞き取った内容：

両親と同居。仕事ばかりしていた父は、母に暴力もふるっていた。父からは「女の子はお茶くみでもしていればラクでいい」といわれたが、パートで働く母からは「いい大学に」といわれ、母の期待を強く感じながら育った。

学校を卒業後、さまざまなアルバイト、日雇い派遣などを経験。働いてなんとか自活しようと思ったがうまくいかず、ひきこもり気味に。医療や相談機関、自助グループなどを複合的に利用したなかで、自助グループの方法(だれからも批判されない。“言いつばなし聞きつばなし”のルールなど)が自分に合っており、医者も驚くほど体調が回復した。グループに参加することで外に出られるし、自分とは違う価値観をもつ、年代も職業もさまざまな人に出会えるのは楽しい。自分を知るということに集中できるのもよい。

もう少し生活時間のリズムが安定して体調がよくなったら、働きたいと思っている。これからどんな仕事に就こうか、取りたい資格もあって迷っている。ネットの検索はよくやっていたが、仕事に使うようなパソコン操作はできないので、無料のパソコン講座があれば参加したい。

アンケート調査結果に加えて、ヒアリング調査記録紙を検討会メンバーに席上配布したうえで座談会を行った(終了後、記録紙は回収した)。そのため、座談会の後半ではAさんのケースからも、自助グループの有効性などについて議論がかわされた。

## V 座談会「若年女性無業者の自立支援に向けて何ができるのか」

日時：2009年3月3日（火）

場所：男女共同参画センター横浜 企画ルーム

出席者(敬称略)：

有吉晶子 NPO法人ユースポート横浜(よこはま若者サポートステーション)  
臨床心理士

田仲愛 マイクロソフト(株) 社会貢献部 社会貢献コーディネーター

山岡由加子 内閣府男女共同参画局調査課 男女共同参画分析官

齋藤真美奈 横浜市市民活力推進局男女共同参画推進課 担当係長

桜井陽子 (財)横浜市男女共同参画推進協会 理事

小園弥生 (財)横浜市男女共同参画推進協会事業企画課 調査事務局担当

※田中恭子委員〔(株) K2 インターナショナル(若者自立塾 Y-MAC) 社会福祉士〕は座談会に欠席のため、調査結果についてのコメントをいただいた(p.36)。

---

### ■調査の目的と特徴

**桜井**：横浜市男女共同参画推進協会では昨年6月から、「若年女性の自立支援に向けた生活状況調査検討会」を開催してきました。そこで今日の座談会は、昨年秋に実施した「若年女性の自立支援に向けた生活状況調査」の結果をどう読むかということだけでなく、検討会で意見交換してきたこと全般、つまり若い、無業の女性の抱える現状と課題、今後の支援策などについて、調査結果も振り返りながらお話を進めていきたいと思えます。

まず、私から、検討会を立ち上げた理由と調査の目的についてお話ししたいと思います。昨今、ニートやひきこもりといった若者の不就業が大きな問題になっています。また、このお正月は派遣切りに代表される非正規雇用者の貧困問題も大きく取り上げられました。ニートにしても派遣切りにしても、これまでは、男性にそういう問題が生じるものとして扱われてきました。しかし、仕事に就いていないとか、仕事に就けないという状況は男性だけに起こっているわけではなく、若い女性も少なからず不就業とそれに伴う貧困問題に直面しています。そして女性と男性とでは異なる背景、異なる問題があるのではないかと思うのですが、そのことはなかなか社会的に認識されていません。

男性の無業状態とそれに伴う経済的困難についてはすぐに話題になりますけれど、若い女性の経済的困難、あるいは生きづらさについては、“家事手伝い”として統計処理されて顕在化されず、したがって対策も十分立てられてこなかったという現実があります。

また、女性の貧困問題という視点からも、母子家庭や高齢単身女性についてはようやく

頭在化されつつありますが、若い女性については問題があることさえも認識されていないという状況が続いています。これまであまり調査研究がなされていなかった、したがって対策も立てられてこなかった、仕事に就いていない若い女性を対象に、その生活状況をまず調べてみようということで、調査を行いました。

男女共同参画センターでは従来、若い女性を対象にした事業をほとんど実施してきませんでした。その反省もふまえて、困難を抱えた若い女性たちに対して男女共同参画センターとしてどのような事業が可能なかを検討したいということもありました。

今回実施した調査には、いくつかの特徴があります。1つめは、“これまでの困難な体験”ということで、学校でのいじめや不登校、セクシュアル・ハラスメントや性被害などの体験をうかがっていること、もう1つは、職歴についてかなり詳しくうかがうことにしたことです。回収数は100以上を目標にしたのですが、結果は46と非常に少なかった。そこで、統計処理に加えて、少なさを補う意味でも「その他」に書かれたことや自由記述欄に書かれたことをていねいに拾いました。これらが今回の調査の特徴かと思います。それでは前置きはこのくらいにして座談会に入りたいと思います。

最初に、みなさんの現場から見える若い女性たちの状況について、お話ししたいと思っています。有吉さんは、よこはま若者サポートステーション<sup>4</sup>で臨床心理士として、来所する若い人たちの相談に日々のおしゃるわけですが、よこはま若者サポートステーションでは、来所する方たちのプロフィールを男女別にとっておしゃいますね。

## ■ “家事手伝い” で問題が潜在化する女性たち

**有吉：**よこはま若者サポートステーションの現場で感じていることをお話しさせていただきます。女性はなかなか表に出てこないという印象です。私たちのところに相談にいらっしゃる女性は全体の3割程度、男性に比べると少ないのが現状です。これは横浜だけではなくて全国のサポートステーションでもほぼ同じ割合だと思います。それと特徴として女性の場合、職歴はかなりあるのですが、男性に比べると圧倒的に非正規、非正社員ですね。とくに有期契約の契約社員や派遣社員が多いです。人間関係が苦手な長期間同じところに通う自信がないということも影響してか、倉庫内作業などの日雇い派遣やアルバイトなどが多いですね。

サポートステーションに来ている方の年齢については、女性は男性より若いです。男性が20代後半から30代が多いのに対して、女性は20代の、比較的若い段階で来てくださ

---

<sup>4</sup> 若者(15歳以上35歳未満)の就労支援をすすめるため、厚生労働省の委託事業として2006年度より若者サポートステーションが全国でスタート。全国で92団体が受託し、若者当事者向けの相談、キャリア開発プログラム、保護者向け事業等を行っている。神奈川県内では横浜市に「よこはま若者サポートステーション」1ヶ所のみで、運営団体はNPO法人ユースポート横浜。

っていて、働く状態に近い方たちといたらいいのでしょうか、そういう方が多い。働くことが遠い、課題があまりに多い方というのは実は相談にもいられんないのかもしれない。男性ほど家庭からのプレッシャーなどで切羽詰まっていなくていいのかもしれない。自分からなんとかしなきゃということで、まだ若い段階で来る方が多いかなというのを感じています。

【図表 1】 よこはま若者サポートステーション来所者の男女別統計（2007 年度）

提供：NPO法人ユースポート横浜

| ■年 代 |       |       |       |       |       |       |     |       |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| 年齢   | 15-18 | 19-22 | 23-26 | 27-30 | 31-34 | 35 以上 | 不明  | 計     |
| 女性   | 9 名   | 34 名  | 25 名  | 40 名  | 13 名  | 0 名   | 2 名 | 123 名 |
|      | 7%    | 28%   | 20%   | 33%   | 11%   | 0%    | 2%  | 29%   |
| 男性   | 13 名  | 39 名  | 91 名  | 97 名  | 49 名  | 1 名   | 1 名 | 291 名 |
|      | 4%    | 13%   | 31%   | 33%   | 17%   | 0%    | 0%  | 71%   |
| 合計   | 22 名  | 75 名  | 116 名 | 137 名 | 62 名  | 1 名   | 5 名 | 418 名 |
|      | 5%    | 18%   | 28%   | 33%   | 15%   | 0%    | 1%  | 100%  |

※合計には性別を登録していない利用者を含む。

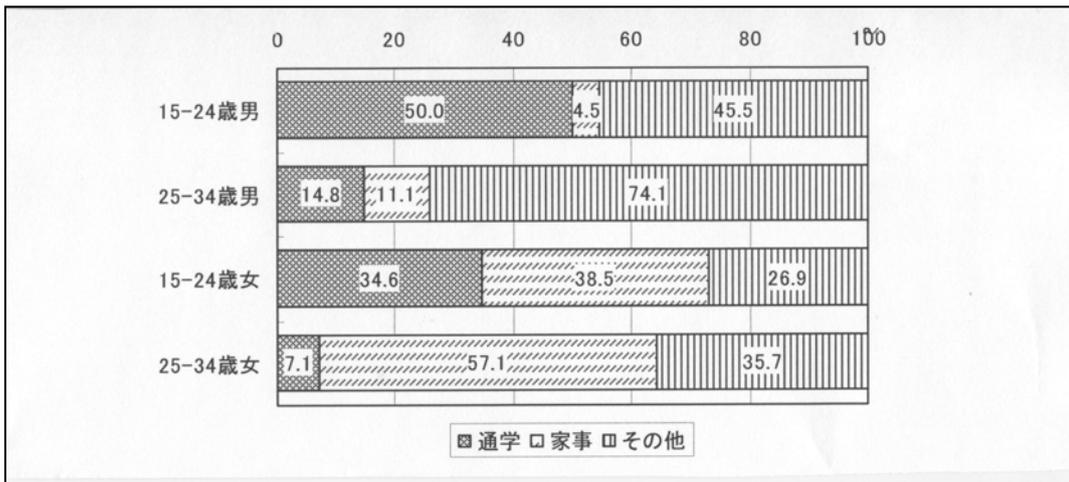
**桜井**：山岡さんは内閣府の監視・影響調査専門調査会で実施した「生活困難を抱える男女に関する検討会」で調査研究の推進役、取りまとめ役をされています。その調査<sup>5</sup>から見えることをお話いただけますか。

**山岡**：内閣府では、統計データとヒアリング調査を通じて、ヒアリングでは有吉さんのところにもご協力いただいたのですが、さまざまな生活困難な状況にある女性、それから男性の状況把握をしてきました。若い女性の問題ということでは、実質的にニートの状態にある女性が“家事手伝い”という形で問題が潜在化してしまっている問題があります。この問題は統計からも一部読み取れますが、たとえば非労働力人口とされる未婚の女性のうち、15歳から24歳では約4割、25歳から34歳では約6割が、“家事”という分類で統計上にあがっています。そのような中で、実際に地域若者サポートステーション等の支援機関の利用につながるのも男性の方が多い傾向が見られます。

また、同じ年齢層の男性に比べて若い女性は非常に高い比率で非正社員であったり、無業になりやすいという結果が統計に出ています。具体的な数字で言いますと、たとえば15。

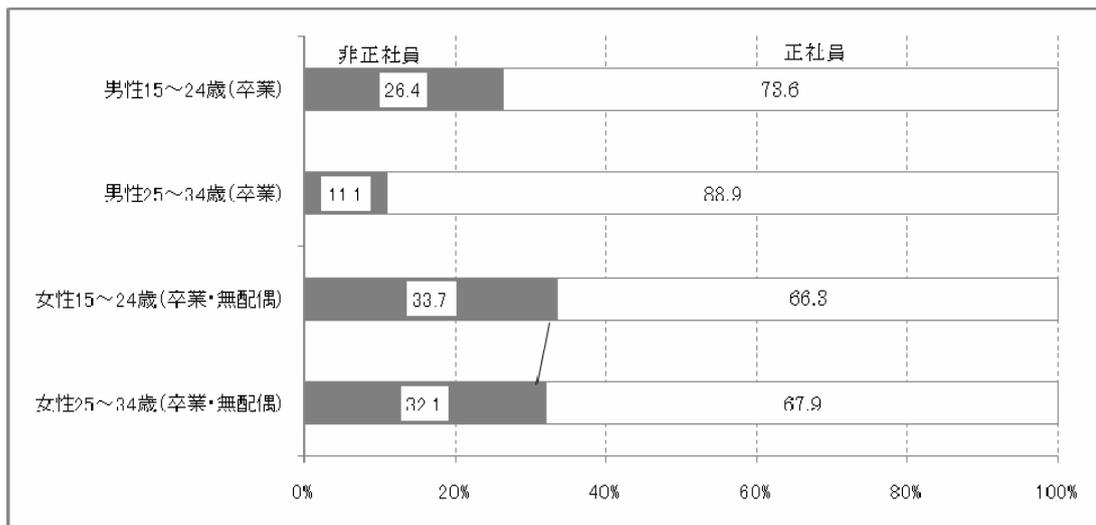
<sup>5</sup> 男女共同参画会議 監視・影響調査専門調査会「新たな経済社会の潮流の中で生活困難を抱える男女について とりまとめに向けた論点整理」2009年3月26日  
<http://www.gender.go.jp/danjo-kaigi/kansieikyo/konnan-ronten/zenbun.pdf>

【図表 2】非労働力人口の構成 (2007 年平均)



出典：総務省「労働力調査(詳細結果)」2007年 注：男性は卒業者、女性は未婚の卒業者

【図表 3】男女別、年齢階級別 (15-24 歳、25-34 歳) 非正社員比率 (2008 年)



出典：総務省「労働力調査 1-3 月詳細集計」2008年 をもとに作表

注：非正社員比率は、アルバイト、パート、派遣社員、契約社員、嘱託の合計が役員を除く雇用者に占める比率

歳から 24 歳の層で、女性の無配偶者の場合は 34 パーセントが非正社員ですが、それに対して男性は 26 パーセントです。25 歳から 34 歳になると、女性は 32 パーセントが非正社員なのに対して、男性は 11 パーセントと下がります。女性も男性も若いときに非正社員として働く傾向はどんどん強まっていますが、男性は年齢が上がるとそこから正社員に抜かれるのに、女性はその後もずっと非正社員化が進んでいくという状況があります。いろいろな統計で見ても、女性のほうが非正社員になって、それがずっと続いて抜けれないという状況があるということがわかってきました。

こうした問題の背景について内閣府でもヒアリング調査を行って探りましたが、女性が経済的に自立するということについての本人・家庭・社会の意識の醸成が不十分であるということや、女性に不利な雇用構造の影響があると思います。また、この検討会のなかでもお話がありましたけれど、学校でのいじめとか、職場での人間関係がうまくいかないなどによって、メンタルな部分で問題を抱えてしまって、その過程で回復が困難になるという問題が男女ともに見られます。

それから、数は少ないのですが、中学卒や高校中退の方で女性は無業者が多くなり、働いても非正規が多いという問題もあります。学歴が相対的に低いということがその後の職歴にも影響して、困難な状況の連鎖が生じています。今回のこちらの調査では、高学歴の方が比較的多いのですが、おそらく今回十分に把握できなかった低学歴の方にも、また大きな問題があるのではないかと感じています。

**齋藤**：横浜市では男女共同参画に関する調査を行っていますが、いままた若い人の間で性別役割分業のゆり戻しというか、性別役割分業を肯定的にとらえる割合が広がっていると思います。30代、40代になると否定的に思う人の割合が増えるのですが、10代、20代だと肯定的にとらえる人が多いという印象は、デートDVの調査などにおいてもかいま見えますね。経済状況、それから雇用状況がたいへん厳しいので、女性が安定的な生活を望むと男性の高収入に頼る傾向があるのかもしれない。

## ■重層的、継続的に困難な状況のなかでも働こうとする女性たち

**桜井**：それでは、調査結果を見ながら意見交換をしていきたいと思います。回答者像、仕事の経験、生活上の経験、どこからでもかまいませんので、注目した点、意外だった点、印象的だった点、あるいはここはこういうふうに理解したといった点など、自由にご発言ください。

**齋藤**：この調査で私が一番驚いたというか、着目したのは、“生活上の困難な体験”のところですね。漠然と思っていたものが数字としてはっきり出ている。それも1人でいくつもの困難を経験しており、1人あたり平均4つの項目に〇がついたことも非常に驚きです。なかには人間関係のうえでの困難、家庭のなかでの困難、また、女性ということでもしれませんが、性被害も出ており、背景としてさまざまなことを抱えていました。そしてそれらのことが現在の彼女たちになんらかの影響を与えているのではないかと感じました。

もう1つ言いますと、彼女たちはそれでもけっこう、働こうとチャレンジしている。実際の仕事の経験もかなり高い割合で示されていましたし、いくつも仕事にチャレンジしようということも、職歴のなかでは見えてきました。

**有吉**：生活上の困難な体験ということで、1人の方がいろんな困難を重複して経験してしまっているというところが、私が現場で感じている状況と非常に合っていると思いました。

ひとつ歯車が狂いはじめると、なんでこんなにたくさんのが降りかかってくるんだろうかと、こちらもお話を聞いていて辛くなる。どうすればこの悪いサイクルから抜け出せるんだろうと感ずることがあります。

やはり見ていると、学校時代のいじめや不登校というところから始まって、貧困だったり、ひとり親家庭だったり、さらに、過食・拒食など女性ならではの、これは女性に多い疾患なので、状況を抱えてしまっているということは珍しくありません。そういう方を“家事手伝い”といってしまうと、困難な状況にあるということが統計上の数の上では出てきません。いい形で家事手伝いという方もいらっしゃるかもしれないけれど、そうではなく、多くの困難を抱えての家事手伝いという方も多んじゃないか、そういう意味で、相談現場で目にする現実と非常にフィットする調査結果であると思います。

**桜井**：内閣府の検討会でも、困難な状況が重層的、継続的に押し寄せてくるという話が出ましたが。

**山岡**：困難な体験が1人の方にいくつも出てくるというケースが非常に多いということですね。不登校があつて、その結果十分な基礎的な学力を獲得できずにいて、職場で定着できなくて、人間関係でも苦しんで、それがメンタルな部分に出てきてしまうというのは、内閣府のヒアリング調査でも同じような傾向が出ていました。それは若者だけではなく、いろいろな困難を抱えたさまざまな年齢層の女性のなかでも見られました。ただ女性の場合に特徴的なのは、やはり暴力の被害が男性に比べて、大きく影響を及ぼしているだろうということです。この調査でも性被害ですとか、家族からの暴力とか、夫や彼氏からの暴力について聞いていますが、女性の場合、この暴力被害の影響が大きいのではないかと思います。

## ■苦手なことは、「人と話すこと」と「パソコン操作」

**桜井**：この調査では、苦手と思うことはなにかを聞いています。「人と話すこと」というのがいちばんにあがって、それから「パソコン操作」というのが2番目でした。若い人なのにとっても意外でした。

**田仲**：若い人たちは当然、パソコンで検索はできるし、ネット依存の問題がでてくるほど、パソコンに慣れていていると思つていましたが、そのことと仕事につながるパソコンスキルをもつているということとは違ふのかと、私も意外に思いました。若い人たちが必ずしもパソコンに慣れていているわけではないと。ケータイをあれだけ使いこなすのに、そこは切り離して考えなくてはいけないのではないかと思います。

**山岡**：今回の調査の回答者は大学卒の方が多いのにな、これだけパソコンスキルへのニーズがあるというのは、やはり学校教育のなかでのパソコンスキルというのは仕事にそのままつながらない、ということもあるのかと思つきました。

**小園**：10年前に学生だった人は、学校でパソコンはやっていないですね。いまの10年の違いはすごく大きいですね。

**齋藤**：仕事に必要なパソコンスキルは仕事をしながら身につくものなので、学校でちょっと論文を書くために使ったというレベルではできないような気がしますね。ビジネスメールだって、友だち同士のメールとは少し違いますし。

**田仲**：パソコンの話が出たのでついでにお話すると、いま「とらば一ゆ」などで出ている事務に関する求人の半数以上がパソコンスキルを求めているということでした。事務職で仕事を探す場合、やはりパソコンスキルは必須のようです。パソコンに苦手意識のある人は、若い人のなかでもまだ多いですね。

学校教育のなかでのパソコン教育の状況はよくわかりませんが、やはり仕事に使うワード、エクセルは、学校で習うものと全然違うと思いますね。学校教育だけではカバーできなくて、これまでの職歴のなかでもそういうスキルを身につけることができなかったのであれば、そこをカバーしていくような支援の需要はあるのではないかと思います。

それから「人と話すこと」というのが、自信回復をはかるためには必要のようです。そのための居場所や、精神的な支えになるような支援が必要なんだろうと思います。

**齋藤**：これだけ困難な経験があれば、人と話すことがこわいとか苦手というのもわかります。家族からも虐待とか暴力とか、学校でのいじめとか、そういう扱いをされているのであれば、なおさらです。

意外だったのは、いま大切にしているものはなにかをたずねた問いに、「自分」と答えた方の割合が高いということです。これはよかった、救いだなと感じます。“自信”というキーワードがありましたけれど、それを高めていく、もっと自分を大事にしていいたよというメッセージをこめて、なにかしら自信をつけていくようなサポートが大切なのかもしれません。

**有吉**：働くということの前に、学校でつまずいたり、その前の家庭でつまずいたり、自信をもつことができなかったということでしょう。パソコン操作というのも実は職場でコミュニケーションがとれたりとか、その場でうまく覚えていく経験ができれば、なんとかなると思えるのですが、職場でコミュニケーションをとりながら覚えられないから、自分でなんとかできるようになって入らなきゃと、自分でハードルを上げちゃっている部分もあるのではないかと思います。

**山岡**：人に聞けるのも能力のうちというか。それがなかなかむずかしいとなると、そのあと職場で必要いろいろな能力もなかなか身につけられないということになってしまう。

**小園**：『教わる技術』という本があるんですけど。自分の思い込みとか偏見に固執しないで、なんでも真っ白な気持ちで人の振りを見て吸収できるものを吸収していきましょう、と。でも、それにはやはり人への信頼感がないとむずかしい。社会に出ても、いじめられるんじゃないかという不信感がまずあるとすると、そうそう人に聞いたりすることもでき

ないんじゃないかと。

**田仲**：とくにいじめの経験があったりすると、なおさらこわいですよね。

**小園**：女の人ってすごくまじめじゃないですか。回答を読んでいても思ったのですが、結婚もしていないのに、結婚したら職場でこういう嫌味をいわれるんじゃないかとか、先取り不安を募らせるようなところがある。でもそれはおかしいことではなくて、生い立ちのなかでつねに先取りしないと生きてこれなかったのかもしれないです。それはやっぱり辛いですよね、つねに防御しないといけなかったわけで。やってしまってから考えればいいじゃないとはなかなか思えない。若い女性を対象にした支援プログラムも、信頼を取り戻してもらうことからやるしかないのかな、と思います。

## ■無業と非正規雇用を繰り返す働き方

**山岡**：今回の調査で私が非常に驚いたのは、職歴がそれなりに書き込まれて、みなさん仕事の経歴があるということでした。でも仕事の中身をみると、最終学歴が大学・短大などの方でも、比較的高い割合で最初からアルバイトで働き、そのあとも何度もアルバイトを繰り返しています。最初につく仕事もつ意味がほんとうは大きいのですが、ご本人の問題だけでなく、家庭環境などの問題もあってアルバイトにつかざるをえなかった。そこで過去の生活体験も影響して長続きしなかった、その結果、不安定な雇用を繰り返して年齢を重ねてしまうという構造があり、問題が非常に深刻であるというのが、この調査でわかりました。

**有吉**：学歴と就労経験の点で気づくのは、今回、無業の女性の調査ということで、たまたまいま仕事をしていないとか、仕事についていないという女性を調査の対象としたわけですが、その方たちの多くは働いた経験がありました。その働いていた期間をトータルすると、年齢から見て、仕事と仕事の間がかなり開いているのではないかと推測できます。大学を卒業した年齢からこれまでに働いていた期間より無業でいた期間の方が長い人もいるようで、ほんとうに不安定そのものです。ですから、いま働いているという方も半年すれば無業かもしれないし、いま無業の方も3ヶ月後には働いているかもしれないし、というのが見えますね。

**齋藤**：最初からアルバイトの方もいますが、最初は正社員だったけれど、社員、派遣、アルバイトというように、だんだん非正規になっていく方もなかにはいます。一度非正規になると、そこからなかなか抜け出せないということがありますね。

**小園**：横浜市内の定時制高校の先生にも話を聞きにいったことがあります。生活保護など受けられる状況なのに親が申請しないとか、たいへんな家庭の子も少なくなく、食事をちゃんと摂れていないとか、学校に来る交通費がないとかのケースもあると。それで学校に来なくなったり、フリーターになる子も多くて、1つの職業を長く続けていくというイメ

ージがなかなかもてないのではないかというお話でした。

それから回収した調査票を見ていて、筆跡から感じたことがあります。きちんとした、安定感のある文字でしっかりした内容を書いている方と、筆跡からして弱い、たどたどしいという方と、2つの類型が感じられました。前者はおそらく比較的長く勤めていて、いまハローワークで次の仕事を探しているのかなと思わせるものでしたし、後者はなんかこう筆跡だけ見ているとこれでは働くのはたいへんだろう、健康状態もあまりよくないのかもしれない、いろいろな困難があるのだろうと思わせるものでした。しっかりした筆跡で書かれた人たちは困難な体験のところにあまり〇をつけず、そうでない筆跡の人はたくさんの項目に〇をつけている、そういうこともありました。これでは、社会に入る以前にもっている資源に大きく差がついているのかもしれない、そんなふうに感じました。

自分でもこれができる、これだったらいけるという自信がどこかにないと、職場に入っていってもなかなかむずかしいだろうと思うんですが。できない、できないと自信のなさばかりに押しつぶされそうになっているのではないかと、「その他」の欄に書き込まれた回答を見ていてもそう思いました。

## ■誰にでも起こりうる状況

**桜井**：いまの小園さんのお話、それから先ほどの山岡さんのお話を聞いて、今回の調査結果がちょっと他のものと違うと思う点は回答者に大学や短大卒の方が多くて、必ずしも十分な就学経験がないとはいえないという点です(p.9 注2)。

**小園**：そうですね、定時制高校などから大学に行く人はごく少ないです。今回、調査票はハローワークで数多く配布してもらいましたので、そこで回答をしてくださった方の一般的な学歴を示しているということではないかと思います。

**桜井**：私が気になっているのは、回答者がすごく少なかったのも、この46人の方たちがいまの若い女性たちのなかのどのあたりに位置するのかということです。全体像を凝縮したものなのか、非常に偏ったある一部だけをあらわしたものなのか、それをどう解釈したらいいのか、という点です。

今回の調査でいちばんむずかしかったのは、調査する対象の女性たちがどこにいて、どうすればこの調査票を届けることができるのかということでした。詳しくは、調査結果の概要を見ていただきたいのですが、私たちは2つのカテゴリーが違うところに調査票を置いてもらいました。1つはハローワークです。仕事を探している方がどなたでも行くところなんです。もう1つは生きづらさを抱えて、困難な状況にある方が訪れる“たまりば”や若者塾というところなんです。この2つのうちのどこで調査票を受け取ったかは、回答者に聞いていないので回答者を2つのグループに分けて分析することはできないのですが。い

ずれにしても、全体のなかで今回の回答者がどのあたりに位置するのか、たいへん気になるところです。そのへんはどうでしょう。

**齋藤**：調査票はハローワークで多く配布されたので、その影響があるのかと思いましたが、もしかしたら横浜市というエリアの特徴が出ているのかもしれないとも思いました。先ほども有吉さんから若者サポートステーションに来所する方と重なっているという説明がありましたが、困難な状況をなんとか解決したいという方が回答してくれているととらえていいのかなど。ただ、調査票を自宅に郵送しているわけではないので、家にこもっている人には届いていないわけです。もしかしたら、親が自宅へ持って行ったかもしれないけれど。いずれにしても回答者は家にこもっている方ではないですよ。

**桜井**：そうすると、こもっている状況の方が一方にいて、もう一方には日常的に働いている方たちがいて、その両方ではないというぐらいの方たちの状況をあらわしていると考えていいのでしょうか。たとえば母子家庭の母親の場合は、すでに統計データも整いつつあり、ジェンダー格差がそのまま経済格差に直結しているというとらえ方ができると思いますが、今回調査対象にした若い無業の女性の場合はどういうふうにとらえれば、社会的な課題として出していけるのかと。

**有吉**：私たちは若者サポートステーションで若い人たちからの相談を日々受けていますが、公表されたデータなども参考にしながら相談に対応しています。いま男性も含めて、20代前半の43パーセントが非正規で働いているというデータがあります(内閣府「青少年白書」2008年度版)。かつ女性のほうが非正規化する割合が高いということで、決して限られた人の問題ではないととらえています。

生活上の困難な体験というのを見たときに、1つなにかにつまずいたときに、それが1つで済まなくて、いろんな問題が積み重なってくる。たとえばいじめや不登校という経験は、少なからず人とうまく接することができなかったという思いとして蓄積され、それがまた、先ほどの非正規の自信のなさのようなものにつながってしまいます。コミュニケーションスキルが社会的にとっても求められているけれども、人と話すのが苦手とか、ITスキルも必要だといわれながらも自分はこれまでやったことがないとか、自信を失えば失うほど精神的にも辛くなってきますし、それが通院になったり、拒食や過食ということにもつながってくると思います。

なにか1つうまくいけなくなったときに、履歴書に空白ができてしまえば、その間にたとえアルバイトをあれこれ3年間断続的に続けていたとしても、世間はその3年間は何をやっていたのということで、次のステップに進めないということがあります。若者サポートステーションで思うのは、誰でもこの状況に陥る可能性があるということです。そういう意味で、この調査の回答数は少ないのですが、決して特別な方たちのことではなくて、誰にでも可能性がある、非常に危うい問題なんじゃないかと私たちは感じています。

## 【調査結果を読んで】

### それぞれの女性に合った「自立」の形

(若者自立塾Y-MAC 田中恭子)

若者自立塾の現場で日々感じていることは、「自立」に至るまでには段階的な支援が必要であるということ、さまざまな状況を抱えている若者を受けとめるには多様な支援のあり方が求められているということです。また、「自立」ということについてもそれぞれに合った自立の形があり、時には正規雇用という選択だけでなく、その人に合った働き方・役割・居場所を見つけることだと考えています。

“若者自立塾Y-MAC”に入塾するのは約8割が男性です。が、相談に来る女性たちの様子を見てみると「自分のやりたい仕事・やりがいのある仕事に就かなければならない」「働かなければならない」といったプレッシャーを感じ、それを自分で解決しようとして追いつめられているように見えます。少し前の時代には家事を切り盛りすることに長けている女性は結婚し、家庭を支えることで認められていましたが、それでは「認められない」と感じている方が多いように思います。男性も「仕事をしなければならぬ」とプレッシャーを感じており、それは女性よりも顕著に現れているかもしれませんが、女性には女性特有のプレッシャーがあるように感じています。

## ■見通せない結婚、そして将来

**桜井**：ほんとうにそうですね。とてもわかりやすい説明をありがとうございます。この調査のもう1つの特徴は、先ほど言い忘れましたが、性別役割分業について聞いて、その結果を全国調査と比較しようと思ったところです (p.21 参照)。

**齋藤**：「夫は外で働き、妻は家庭を守る」ということについて賛成か反対かたずねているところですね。これに対して「わからない」と回答した方がなぜこれだけ多かったのかと考えると、家庭のなかの性別役割分業の刷り込みも多少、影響があるかなと思っています。自分の家庭がどういうモデルだったのかということです。女には学問なんて必要ないとか、大学なんて行ったら女は結婚して家庭に入るんだから無駄だとか、家庭のそういう刷り込みって少なからず、学歴とか職歴に影響があるのだらうと思いますね。今回、1件だけできたヒアリング調査でも「お前はそんなに苦労なくていいってお父さんにいわれて育った」というくだりがありましたが、そう言われて育った女性は少なくないのではないのでしょうか。だから“家事手伝い”という、女性ならではの肩書きがいままで生きていたのかなという感じがします。

**桜井**：いま齋藤さんが指摘されたように「わからない」と回答した人が非常に多かったのが今回の特徴でした。それと、性別役割分業に「賛成」だという回答が少なかったのは、これは意外でした。調査する前は、結婚願望が強くて、性別役割分業を当たり前とする人たちが強いのではないかと思っていたのですが、そうではなくて、「反対」という人たちがすごく多かった。

**有吉**：若者サポートステーションに相談にいらっしゃる方を見ていて、従来のライフコースを描けなくなっているんじゃないかという気がします。相談にみえる方のなかで、彼氏がいるとか結婚できたらいいなと言う方もいないわけではないんですが、多くの方が結婚につながるような男性との出会いからも疎外されているというか……。

そういうところから遠いところに自分がある、とってしまう背景として、いままでの経験からやはり男性がこわいとか、男性が苦手であるということがあるように思います。また、年齢が高くなってくると、男性も最近はとても雇用が不安定になっていて、将来順調に給料が増えていくということは描きにくいので、女性も働かなくちゃまずいんじゃないかと思っている方も増えています。

自分が結婚するというリアリティがない方がすごく多いような気がします。とにかくそんな先のことなんかわからないという。「わからない」という方が多かったのは、私たちが相談を受けている立場からすると、とても納得というか、とてもわかる。そんなに具体的に“結婚して、それからこうして”という話が出てくることはないんです。

**齋藤**：結婚というより、将来全般について見通しがつかないということで、「わからない」というのでしょうか。

**有吉**：そうですね。養ってくれる人がいたら楽なのかもしれないけれど、結婚できるかどうかともわからないし、そんな養ってくれるような男性がいるのかどうかもわからない。それで「よくわからない」というのがあがる気がします。

**山岡**：私もそう思いますね。それから理想の暮らし方、生き方を聞いているところで、3分の1ぐらいの人が「働いてひとり暮らしをしたい」ときっちり答えているのを見ると、結婚に対するリアリティがないということと同時に、人間関係を結ぶことに対する苦手意識があって、それが結婚も含めて、自分はできないんじゃないかという不安感につながっているのではないかと思います。夫婦間の役割分担を聞いても、それ以前の結婚ということすら考えられないという状況があるのではないかと思いますね。

**桜井**：内閣府の「男女共同参画社会に関する世論調査」では、「夫は外で働き、妻は家を守る」という性別役割分業に20歳から29歳の女性のやはり半数以上が「反対」「どちらかといえば反対」と答えています。しかし、「わからない」の回答は2.3%と大変少ない。今回の調査で「わからない」が多かったのは、1つの特徴と言えらると思います。

**山岡**：国の調査だと保守化の傾向が、とくに若い人と微妙に見られるのですが、それはどちらかといえば、結婚をイメージできる暮らしをしている人のなかで生じていることで

あると、この結果を見て思いました。

**齋藤**：いまの経済情勢では、数年後の調査結果はまたすごく変わるような気がしますね。

**桜井**：1人で生きるという選択をせざるをえない人が増えるということでしょうか。

**山岡**：そういう現実派の女性が増えるのではないかと感じています。女性だけではなく男性の意識もまたどう変わっていくか。男性の方も現実味を帯びてきて、女性に働いてもらわなくてはという意識がもっと出てくるかもしれませんね。

**小園**：すでに30代の男性はそうですね。妻も働いてほしいという人が多いですね。

## ■求められるサポート

**桜井**：もうひとつお聞きします。調査対象の方たち、つまり若い無業の女性たちに対して、これからどういう支援をしていったらいいのかということです。この検討会には内閣府や横浜市、そして民間企業から参加していただきましたが、国の施策として、また自治体の施策として、さらに男女共同参画センターでの事業では、どういうことをやっていくのがいちばん望ましいでしょうか。

「今後どのような相談先やサポートを利用したいか」という設問に対しては、「友人・先輩」という回答が多く、インフォーマルなところに頼らざるをえないということが出てきています。

**齋藤**：「若者サポートステーション」という回答が高い割合でありましたね。

**有吉**：そうですね。受付でアンケート調査の願いをして調査票を手渡したので、もともと若者サポートステーションに通っている方が回答してくれたからという気がします。

**田仲**：ここでいう「友人・先輩」というのが、もともといる「友人・先輩」なのか、それともそういう仲間がほしいということなのか。

**桜井**：希望の部分もあるのかもしれない。

**田仲**：「あなたにとって大切なものはなんですか」という設問に対する回答のなかに、「家族」をあげた人も多かったですね。面接で答えてくれた方のお話にもやっぱり仲間ができたことがうれしいということが出てきました。こういう困難な状況にあるのは自分だけと思っただけで孤立している方が多いのではないかと思います。

そういう意味ではつながりを求めることに対して自助グループなどの支援と、それに加えてセルフエスティームといいますか、自己信頼感の回復といいますか、それらがセットで支援できたらと思います。非正規、あるいは仕事についていないということで、もし引け目を感じていても、たとえば事務職でPCスキルと書いてあっても、実はそんなに高いレベルではなかったりもするわけです。でも、PCスキルと書いてあるのを見た時点で、ああ私には無理だと思ってしまう。それに習いたくてもお金もないし、どこに習いに行ったらいいかもわからないし、と思っている。そういう状況にあるならば、仲間にも出会え

て、かつ自信、達成感を感じられる、スキルを身につけられるものとセットにして支援していく必要があるのかなと思います。

**齋藤**：自助グループというのは、ほしいサポートの自由記述のなかにも出てきますが、横浜の男女共同参画センターではかなりの数の自助グループの支援を行っていますので、そういうところにぜひ参加してほしいですね。「辛い思いをしているのは私だけ」と思っていることが多くありますから、その孤立から抜け出せない。そこからほぐしてあげるのは必要なんじゃないかと思います。

**小園**：ヒアリング調査ですが、たまたま自助グループに通っている人にお話をうかがうことができました。そういう方はいつも人の話を聴いたり、自分の話をくり返ししているので、コミュニケーションスキルが上がっています。とてもことばが豊かですし、こちらがなにを聞きたいかもわかってくれます。自助グループに参加することでそういう力をつけてこられたのではないかと思うんです。自助グループのように、市民の方同士がつながっていく仕組みをつくっていくことも男女共同参画センターのだいじな仕事だと思っています。

**田仲**：ばく然とコミュニケーションスキルがだいじといわれても、いじめや職場の人間関係で孤立した体験のある方に見れば、じゃあそれはどうしたら身につくんだろうと思いますよね。仕事をしていなくて孤立した状態では身につかなくても、自助グループに参加して話すことがそういう訓練につながるということはあると思います。

**齋藤**：アサーティブ・トレーニングなどもコミュニケーションスキルの向上につながりますね。これも男女共同参画センターの事業として実施しているので、生かせるのではないかと思います。

## ■国や自治体からの必要な支援策

**桜井**：男女共同参画センターでの支援はもちろんですが、有吉さんがおっしゃったように、誰でもがそうなる可能性があるということであれば、この問題をもっと顕在化させて、対応していく必要があるのではないかと思います。そのあたりは国や市でなにかもう少し必要だと思われることはありますでしょうか。

**齋藤**：横浜市では若い人の自立に向けた支援に取り組んでおり、とくに昨年秋からの急激な雇用悪化を受けて、市をあげて緊急雇用対策に取り組んでいます。しかし、今回の調査結果からみえてきた、実に困難な経験を背景にもつ女性に対しては、単純な就労支援では不十分といえますね。

**桜井**：調査結果を見る限り、状況が厳しくても彼女たちは働きたいわけですよ。そういう方たちが働ける状況をつくれていないというところに問題があると思うんです。厚生労働省がニート支援などいろいろやっていますが、内閣府で調査したように女性と男性の違い

に着目する必要があるし、そこに着目しないでの支援は、おそらく若い女性に対しては、十分な支援になっていないということなのではないのでしょうか。

**山岡**：若者サポートステーションにつながっている方たちの7割は男性だということですが、若い男性で働いていない人がすごく増えて、ニートとして顕在化してきたわけです。ですから、最初は就労支援というところで支援策が出てきたのですが、それ以前のメンタルな問題があったり、居場所がないという問題であったり、人間関係がつかれないとか、教育段階から学びが欠落していたとか、いろんな問題があることがわかってきました。そこは国の方でも、多様な機関と連携して、困難を抱える若者を支援しましょうという動きは進みつつあるんですね。

それからもちろん、働きたい人が出て行く先の受け皿ということで雇用対策が必要なのですが、昨今の経済情勢もあって、非正規雇用者の処遇の改善やセイフティーネットをどうするんだというのがありますね。しかし、やはり個人のライフスキルというか生きていく力をつけていくという意味では、自分がどう生きていくのか、どのような仕事をしていくのか、どうやって生計を立てていくのかについて考える、教育段階から支援というか学習の機会が必要ではないかと思います。もう少し仕事と結びつけて考えることができないものかと思っています。

学校教育のなかで、自分の将来をどのような仕事につくかも含めてどう考えていくのかということ、かなり早い段階から行うのがいいのではないかと、有識者の方からご意見をもらっています。学校でちょっと職業体験をさせて終るということではなくて、教育のあり方も考えなければいけないのかなという認識はありますね。

**桜井**：結局、きわめて総合的な支援が必要だということでしょうか。この問題は就労だけではなくて、教育やそれから福祉と医療など、1つではなくてまさに総合的な支援を行わなければ、解決の方向が見えてこないということですね。このことは最近顕在化してきた課題すべてについて言えると思います。たとえばDVについてですが、殴られている、暴力を振るわれているといっても、医療的なものだけでは不十分で、精神的な支援、福祉の面からの支援、さらに教育、それから自立のための就労支援など多方面からの総合的なアプローチが必要です。

しかし単に総合性だけをいうと、女性と男性の違いが見えてこなくなってしまう。女性と男性では問題の背景もあらわれ方も違うわけですから、それぞれに対応した支援が必要になってくると思います。この問題では、そこがまだ、国の施策としても十分ではないのでしょうか。内閣府の「生活困難を抱える男女に関する検討会」の調査でも、そういうところがはっきり出そう楽しみにしています。

**山岡**：若者を対象に総合的な支援が必要といったときに、どこがコーディネートするのかということがありますね。たとえば、子どもの分野なら子ども家庭支援センターがあり、高齢者なら地域包括支援センターがあり、高齢者ならケアマネジャーがいて支援のコーデ

イネートを行っています。若者の場合、たとえば若者サポートステーションのようなところがその機能を担うのかもしれませんが、若い女性ということであれば、男女共同参画センターも役割を果たすことができるのかもしれませんが。

**有吉：**厚生労働省が意図したことは、そのあたりを若者サポートステーションに担わせるということだったと思うのですが、実際には支援の資源が十分ではなくて、来所する方に対して役割を十分に果たせていない状態です。ですからサポートステーションにしてみれば、女性のニーズに対しては男女共同参画センターの方でやってくださるということで、サポートステーションに来てくださった女性を窓口でご紹介していくという連携ができればと。そういう連携もこれからつくっていかなくてはいけない段階ですね。

**桜井：**男女共同参画センターもこれまでに母子家庭の母親やDVの被害を受けた女性に対して、自己信頼感を回復するための講座や就業支援講座などを行ってきましたし、相談や情報提供など総合的に支援できる事業をつくってきました。ですから、そういう経験を生かして若い女性に向けても事業ができるようになればいいと思っているんですが、なにせ若い女性を対象にした事業を本格的に行うのは初めての経験ですので、若者サポートステーションと一緒にやっていくことができれば、とても心強いと思います。

でもそれにしても、投入される資金が少なすぎますね。もう少し、男女別にフォーカスした支援策があつていいですよ。イギリスなどに比べて、十分な資源が投入されていないということが、いちばんの問題だと思います。

**有吉：**それでも横浜は全国的に見ればわりと恵まれている方で、横浜市が予算を出しているからまだいいのですが、そうじゃない地域は若者サポートステーション1ヶ所あたり、2008年は1,600万円くらいですか、厚生労働省からの予算が。とてもスタッフが生活していくことはできないし、地域のなかのいろいろな資源の情報を収集して、相談者に適切なお話を紹介していくというような活動はできないですね。

**田仲：**民間企業の支援はあるのでしょうか。

**有吉：**私どものNPOでは若者サポートステーション以外の部門で企業から支援していただいていたのですが、この景気悪化で2009年度からはそれがゼロになってしまうという状況です。こういった傾向は若者支援に限らずなんです。

**田仲：**国や自治体の支援のお話もうかがうことができ、また、今回企業の立場で出させていただいて問題がよくわかりました。支援が足りないという話がありましたが、たぶんジェンダーの視点をもって若者に支援する企業は少ないと思いますが、民間企業の方もがんばらなければならないと思いますね。

## ■ジェンダーの視点を入れて支援ということ

**山岡：**女性に対する支援というときに難しいのは、なにをもってして女性に対する支援と

いうのかということがわかりにくいことです。支援の場で、女性への支援というのは、男性への支援と比べたときに、なにかかわり方の違いがあるのかどうか。

**桜井**：たとえば、有吉さんのお話では若者サポートステーションの来所者のうち女性は3割しかいない。つまり女性はサポートステーションに行けていないということで、それはなぜなのかということをはっきりさせることではないでしょうか。

**有吉**：先ほど医療面での支援ということが出ましたが、同じようにたとえばメンタルで通院していらっしゃるにしても、男性と女性のどちらが切羽詰まっているかといったら、男性の方だと思います。なぜなら、男性は働くものということが自明になっていて、男性の方がより家族などからのプレッシャーがあり、それでおそらく若者サポートステーションにつながっているということもあると思います。

　　といって、女性が来ていないからといって、問題が小さいわけでは決してないわけで、女性の場合は必ずしも働くということではない切り口から入って、しかしその先で仕事まで支援してくれるところがあると、だいぶ女性の掘り起こしにつながるのではないかと思います。

**小園**：仕事ではない切り口で女性のニーズの掘り起こしをするというのは、現場の者としてすごくわかるのですが、そうすると生きていくための資源を提供していくとか、困難の連鎖を断っていく方向での支援ということになるのでしょうか。

**有吉**：横浜でも困難な状況にある若い人たちを支援するクリニックがあります。そういうところに通っている方が、もう少し元気が出たら、横浜の男女共同参画センターでこれから実施しようとしている「しごと準備講座」などに出てくることもできると思うのですが、そういう講座に通うまでにはその間には大きな隔たりがあるのかなと。潜在的にはニーズはあると思うので、そこがもう少し制度としてつながっていかないと、と思っています。

**桜井**：先ほどご指摘がありましたが、「困難な経験」のところでは若い女性たちが暴力にさらされている状況がわかってきました。そのところも男性とは異なる傾向ではないかと思っています。今回はそれ以上は調査できませんでしたが、家庭のなかだけでなく、学校や仕事のなかで若い女性の性暴力被害も、その率はたいへん高いと推測されます。DVの問題が顕在化するまでは、こんなに多くの女性が夫やボーイフレンドなど親しい男性から暴力を受けているなんて、世間では誰も思わなかったわけです。同じように、若い女性の性暴力被害については、まだ調査もほとんど行われておらず、問題が潜在化したままということではないでしょうか。こういった調査も必要ですね。

**山岡**：そうですね。そのところでの若者に関するデータがまだ少ないんですね。内閣府の今回の検討会でもそれに関する全国調査はできなかったもので、なかなか出てきにくいのですが。暴力の問題が背景にあって、そのことで困難な状況に陥るし、そこから立ち上がりにくくなり、そのことに伴ういろいろなトラブルでこころもからだも疲れてしまって、困難な状況から抜け出しにくくなっている。数字ではあらわれていませんが、暴力の影響は

相当大きいと見た方がいいですね。

## ■ ガールズ編「パソコン&しごと準備講座」

**桜井**：最後に、わたくしども横浜市男女共同参画推進協会ではこの5月から、マイクロソフト株式会社からの助成をいただき、仕事についていない若い女性たちの自立支援を目的とした新しいプログラムを実施していきたいと考えています。そのプログラムについてもご意見をいただければと思います。

**小園**：ガールズ編「パソコン&しごと準備講座」(p.53 チラシ参照)について、少し説明させていただきます。講座をスタートする前に、まず説明会を開催します。そこでプログラムや担当スタッフの紹介、それから就職した先輩の話などを聞いていただき、あわせて男女共同参画センターという場所がどんなところか見ていただこうと思っています。話をしてくれる先輩は、若者サポートステーションで紹介していただければと思っています。

「パソコン&しごと準備講座」は15歳から35歳のシングル女性で働くことに困難を抱えている方が対象です。ねらいとしては4つあげています。

- ・ 楽しく安心できる時間を人と過ごし、仲間を得る
- ・ パソコンスキルを習得しながら自己肯定感を上げる
- ・ 自分を支える方法と支援機関を知る
- ・ 働く自分をイメージする

の4つです。この、“働く自分をイメージする”ということ、講座のゴールにしたいと考えています。センターのパソコンルームと会議室を使って講座を行い、定員は女性15人です。センターで行っている再就職講座の定員は24人なので、10人ほど少なく設定しました。少人数でいいに行きたいと考えています。

前半が「パソコン講座」で9日間、後半は「しごと準備講座」で7日間。通しで参加できる方を優先します。前回の検討会で、対象となる女性たちにとって午前の講座に毎日のように通うのは難しいというご意見をいただきましたので、前半の「パソコン講座」は午後1時開始にしました。通常のパソコン講座だけでなく、フリーの練習時間やひとこと発声タイムやふりかえりタイムなどを入れています。こういう時間を共有することによって、少しずつ安心感が生まれ、気持ちがあがっていくといいですが。

後半の7日間は「しごと準備講座」です。こちらは午前10時半からスタートで、午前中はパソコンの実践編で、パソコンを使って履歴書を書いたり求人情報を検索したりします。お昼をはさんで午後1時間半、自分の得意なことを思い出してもらったり、声を出して自分を表現したり、自分に向く仕事を考えたり、職場に合ったメイクとか履歴書に貼れる写真をプロに撮ってもらったりしながら、最後は目標を語る交流会で締めくくりたいと思います。

こんなプランです。

**桜井**：パソコン講座のテキストも対象者に合わせて新しく作るように、頼んでいます。

**山岡**：いま働いていない人が対象ですよ。

**桜井**：調査結果をみると、働いていることと働いていないことが断続的に繰り返されていることがわかります。ですから、この調査に回答してくれたような方はすべて対象かなと。ハローワークで自分で就職先を見つけられる人はともかくとして。

**有吉**：働きたいけど自信がないという人には、毎日通う練習をしてみようよ、というところからの導入ですね。内容としては行ってみたいなという人は結構いると思います。

**山岡**：ぱっと見たときに、なにか集中講座のような印象で、たとえば今回の調査の対象になっているような方が、急にこれに申し込むことができるかどうか。ちょっとお試してみたいなものがあつた方がいいような気がします。

**有吉**：後半は週に2回ぐらいだからそうでもないかもしれないけれど、前半のパソコン講座は週4日通うので、メンタル的に不安定な方にはちょっときついかもかもしれませんね。週3日ぐらいはアルバイトしたいと思っているぐらいの方とか、職業訓練校はちょっと長いかなと思っている方が対象かなと。試しに来て、2日目以降は来ないという方もいらっしゃるかもしれない。そういうリスクもあるかなあという感じですが。

**小園**：来てくれれば、いいんですが。

**桜井**：今回の調査票もどこにおけば対象者となるような方に届くのかとたいへん苦心しました。新しく始める講座もどうすれば必要な方に知っていただくことができるのかがよく見えない。ニーズはあると思うのですが、どうしたらいいかなと。

**小園**：どういう人たちが集まってくれるかというのが、ちょっと不安です。ふつうにハローワークにチラシを置いておくと、無料のパソコン講座だと思ってたくさんの方が来るでしょう。でも、それではちょっと違いますし。ハローワークでもただチラシを置いてもらうのではなく、相談員に手配りで渡してもらうことが必要だと思っています。

**齋藤**：まずは始めてみて、ようやく見えてくるということだと思います。プログラムも順次よくしていくしかないのかな、と。

**桜井**：とにかくやってみるということでしょうか、ほかでやっていないことですから。本日は、長時間にわたり、示唆にとんだ貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

## 資料編

### I アンケート調査票

2008年10月

## 若年女性の自立支援に向けた生活状況調査

このアンケート調査は、横浜市内の男女共同参画センターにおいて今後若年女性の自立への助けになる事業を企画実施する際の、基礎資料とするために行います。原則として、現時点で15歳以上35歳未満の、学校や職場に属していない女性を対象としています。市内各地の就労支援拠点のご協力をいただき、配布しています。

お手数とは存じますが、ぜひご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

☆あなたのお名前やご住所を書いていただく必要はありません。  
☆アンケートの結果はすべてコンピュータ処理を行い、統計的な集計・分析を致します。  
☆ご回答の内容はもちろん、回答後にさらに直接お話を聞くことに協力いただける方のみ、電話番号またはメールアドレスおよびハンドルネームをお書きいただくようになっていきますが、これらの個人情報が外部にもれることは一切ありません。  
☆ご返送いただいた調査用紙は、終了後に当協会が責任をもって処分いたします。

#### ★調査用紙の返送について

ご記入いただいた調査用紙は、同封の返信用封筒（切手不要）にて  
**11月末日までに** 投函してください。

#### ★ご不明な点がございましたら、下記までお問合せ先ください。

【調査主体】財団法人横浜市男女共同参画推進協会 事業企画課  
〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町 435-1  
電話 045-862-5141 ファクス 045-862-3101  
[Eメールkikaku@women.city.yokohama.jp](mailto:kikaku@women.city.yokohama.jp)

#### ☆本調査の結果について

後日、当協会のホームページにて発表させていただきます。

<http://www.women.city.yokohama.jp/>



Q5 今のあなたにとって不安なことはなんですか。

(いくつでも○をつけ、そのうちもっとも不安なことに◎をつけてください)

|             |               |
|-------------|---------------|
| ①仕事・職場のこと   | ②自分の病気や体調のこと  |
| ③結婚・彼氏のこと   | ④友だちなど対人関係    |
| ⑤親や家族のこと    | ⑥生活費・生計のこと    |
| ⑦さびしさ・孤独    | ⑧相談先・相手がいないこと |
| ⑨ばくぜんと将来が不安 |               |
| ⑩その他(具体的に ) |               |

⇒①に○をつけた方は Q5-1 ^

⇒①に○をつけなかった方は Q6 ^

Q5-1 仕事・職場のどんなことが不安ですか。

(いくつでも○をつけ、そのうちもっとも不安なことに◎をつけてください)

|                      |
|----------------------|
| ①仕事に就けるかどうか          |
| ②自分に向いている仕事かわからない    |
| ③決まった時間に通えるかどうか      |
| ④まわりの人とうまくやっていけるかどうか |
| ⑤与えられた仕事をこなせるかどうか    |
| ⑥その他(具体的に )          |

## 2 これまでの仕事の経験などについて

Q6 これまで働いたことがありますか(あてはまるものに○をつけてください)。

|           |           |
|-----------|-----------|
| ①働いたことがある | ②働いたことはない |
|-----------|-----------|

⇒①に○をつけた方は Q6-1 ^

⇒②に○をつけた方は Q9 ^どうぞ

Q6-1 これまでに経験した仕事について内容や期間、雇用形態についてお聞きます。

| 仕事の内容<br>(コンビニ、ファミレス、居酒屋、<br>一般事務など具体的に) | 期 間 ( a b c のどれ<br>かにご記入下さい) |    |         | 雇 用 形 態<br>(○をつけてください) |
|--|------------------------------|----|---------|------------------------|
|  | a                            | b  | c       |                        |
| ①  | 日・                           | ヵ月 | 年<br>ヵ月 | 社員・派遣・バイト・フリー・その他      |
| ②  | 日・                           | ヵ月 | 年<br>ヵ月 | 社員・派遣・バイト・フリー・その他      |
| ③  | 日                            | ヵ月 | 年<br>ヵ月 | 社員・派遣・バイト・フリー・その他      |
| ④  | 日                            | ヵ月 | 年<br>ヵ月 | 社員・派遣・バイト・フリー・その他      |
| ⑤  | 日                            | ヵ月 | 年<br>ヵ月 | 社員・派遣・バイト・フリー・その他      |

Q7 現在収入のある仕事をしていますか(あてはまるものに○をつけてください)。

|        |         |
|--------|---------|
| ①している。 | ②していない。 |
|--------|---------|

⇒①に○をつけた方は Q7-1 へ

⇒②に○をつけた方は Q9 へどうぞ

Q7-1

その仕事について、内容、勤続期間、雇用形態などをお聞きます。

| 仕事の内容<br>(コンビニ、ファミレス、居酒屋、<br>一般事務など具体的に) | 期 間 ( a b c のどれか<br>にご記入下さい) |    |         | 雇 用 形 態<br>(○をつけてください) |
|--|------------------------------|----|---------|------------------------|
|  | a                            | b  | c       |                        |
|  | 日                            | 加月 | 年<br>加月 | 社員・派遣・バイト・フリー・その他      |

Q8 これまでの仕事のうち、もっとも収入がよかったものと、悪かったものは、どれでしたか。また、その収入はどのくらいでしたか。

(仕事の経験が1度だけの方は、①にその収入について、お書きください)

|  |
|--|
| ① もっとも収入がよかった仕事 (Q6-1の 番・現在)<br>(次に○をつけ、金額をお書きください。)<br>時給・日給・月給 _____ 円 |
| ② もっとも収入が悪かった仕事 (Q6-1の 番・現在)<br>(次に○をつけ、金額をお書きください。)<br>時給・日給・月給 _____ 円 |

### 3 これまでの体験について

答えにくい質問はむりに答えず、パスしてけっこうです。

Q9 あなたにはこれまで次のような体験がありますか。

(あてはまるものいくつかでも、○をつけてください)

|  |                          |
|--|--------------------------|
|  | ①1ヶ月以上、(病気やけが以外で)不登校になった |
|  | ②学校でいじめられた               |
|  | ③職場の人間関係でトラブルがあった        |
|  | ④家計が苦しかった                |
|  | ⑤ひとり親家庭だった               |
|  | ⑥父から母への暴力があった            |
|  | ⑦親・きょうだいなど家族からの暴力・虐待を受けた |
|  | ⑧つきあっている彼氏や夫・元夫からの暴力を受けた |
|  | ⑨親など家族からの支配、期待がとても重荷だった  |
|  | ⑩精神科またはメンタルクリニックに通院した    |

|                        |
|------------------------|
| ⑪1 ヶ月以上、薬をのんでいた        |
| ⑫食べ吐き・過食・拒食などがあった      |
| ⑬望まない妊娠をした             |
| ⑭セクシュアル・ハラスメントや性被害にあった |
| ⑮その他<br>(具体的に )        |

Q10 これまで(あるいは現在の)あなたがほっとできる場所はどこでしたか。

(あてはまるものいくつかでも、○をつけてください)

|                      |           |
|----------------------|-----------|
| ①家庭                  | ②自分の部屋    |
| ③彼氏の部屋               | ④友だちや先輩の家 |
| ⑤路上や店・コンビニ           | ⑥塾や習い事の教室 |
| ⑦ネットカフェ・まんが喫茶など      |           |
| ⑧ネット上のやりとり           |           |
| ⑨民間グループなどが運営する“たまり場” |           |
| ⑩その他(具体的に )          |           |
| ⑪ほっとできる場所はなかった       |           |

#### 4 現在と今後について

Q11 次にあげる中であなたが苦手だと思えますか。

(あてはまるものいくつかでも、○をつけてください)

|           |
|-----------|
| ①字を読むこと   |
| ②字を書くこと   |
| ③計算をすること  |
| ④手先の細かい作業 |
| ⑤パソコン操作   |
| ⑥人の話を聞くこと |
| ⑦人に話すこと   |

Q12 あなたの家の現在の家計は次のどれに近いですか。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

|             |
|-------------|
| ①ゆとりがある     |
| ②まあまあゆとりがある |
| ③やや苦しい      |
| ④苦しい        |
| ⑤よくわからない    |

Q13 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どう思いますか。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

|  |             |
|--|-------------|
|  | ①反対         |
|  | ②どちらかといえば反対 |
|  | ③わからない      |
|  | ④どちらかといえば賛成 |
|  | ⑤賛成         |

Q14 今後どういう暮らし方・生き方をするのが理想ですか。

(自分のきもちに一番近いもの1つに○をつけてください)

|  |                     |
|--|---------------------|
|  | ①結婚して家庭に入りたい        |
|  | ②結婚して、パートなどで短時間働きたい |
|  | ③結婚して、フルタイムで働きたい    |
|  | ④できるかぎり親元で暮らしたい     |
|  | ⑤働いて、ひとり暮らしをしたい     |
|  | ⑥将来のことはあまり考えていない    |
|  | ⑦その他(具体的に )         |

Q15 今後あなたが生活していく上で、どんな相談先やサポートを利用したいですか。

(現在利用しているものも含め、3つを選んで○をつけてください)

|                      |               |
|----------------------|---------------|
| ①ハローワーク              | ②若者サポートステーション |
| ③若者自立塾               | ④NPOや民間の相談    |
| ⑤区役所や保健所(福祉保健センター)   |               |
| ⑥職業訓練校               | ⑦友人・先輩        |
| ⑧親や家族・親戚             | ⑨学校の先生        |
| ⑩ネット上の相談・ネット上のコミュニティ |               |
| ⑪その他(具体的に )          |               |

## 5 最後に・・・

Q16 こんなサポートがあったらうれしい、というようなご意見・ご要望がありましたら自由にお書きください。

★ご協力ありがとうございました。さらに直接お話をうかがうことについて、協力してもよいと思われる方は、次の連絡先をお書き下さい。

|                   |  |
|-------------------|--|
| 携帯電話番号あるいはメールアドレス |  |
| ハンドルネーム           |  |

## Ⅱ よこはま若者サポートステーション男女別統計（2007年度）

提供：NPO法人ユースポート横濱

| ■年 代 |       |       |       |       |       |       |    |      |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|------|
| 年齢   | 15-18 | 19-22 | 23-26 | 27-30 | 31-34 | 35 以上 | 不明 | 計    |
| 女性   | 9名    | 34名   | 25名   | 40名   | 13名   | 0名    | 2名 | 123名 |
|      | 7%    | 28%   | 20%   | 33%   | 11%   | 0%    | 2% | 29%  |
| 男性   | 13名   | 39名   | 91名   | 97名   | 49名   | 1名    | 1名 | 291名 |
|      | 4%    | 13%   | 31%   | 33%   | 17%   | 0%    | 0% | 71%  |
| 合計   | 22名   | 75名   | 116名  | 137名  | 62名   | 1名    | 5名 | 418名 |
|      | 5%    | 18%   | 28%   | 33%   | 15%   | 0%    | 1% | 100% |

※合計には性別を登録していない利用者を含む。

| ■学 歴 |     |     |      |        |         |       |        |       |     |
|------|-----|-----|------|--------|---------|-------|--------|-------|-----|
|      | 中卒  | 高卒  | 高校中退 | 大学・短大卒 | 大学・短大中退 | 専門学校卒 | 専門学校中退 | 学校在学中 | 不明  |
| 女性   | 5名  | 22名 | 9名   | 34名    | 9名      | 12名   | 9名     | 8名    | 8名  |
|      | 4%  | 18% | 7%   | 28%    | 7%      | 10%   | 7%     | 7%    | 7%  |
| 男性   | 6名  | 49名 | 18名  | 107名   | 25名     | 29名   | 11名    | 18名   | 21名 |
|      | 2%  | 17% | 6%   | 37%    | 9%      | 10%   | 4%     | 6%    | 7%  |
| 合計   | 11名 | 72名 | 27名  | 142名   | 34名     | 41名   | 20名    | 26名   | 30名 |
|      | 3%  | 17% | 6%   | 34%    | 8%      | 10%   | 5%     | 6%    | 7%  |

※合計には性別を登録していない利用者を含む。

| ■職 歴 |      |     | ■雇用形態 |      |      |     |      |
|------|------|-----|-------|------|------|-----|------|
|      | 有    | 無   | 計     | 正規   | 非正規  | 不明  | 計    |
| 女性   | 97名  | 18名 | 115名  | 21名  | 75名  | 1名  | 97名  |
|      | 84%  | 16% |       | 22%  | 77%  | 1%  |      |
| 男性   | 245名 | 36名 | 281名  | 78名  | 158名 | 9名  | 245名 |
|      | 87%  | 13% |       | 32%  | 64%  | 4%  |      |
| 合計   | 344名 | 54名 | 398名  | 100名 | 233名 | 11名 | 344名 |
|      | 86%  | 14% |       | 29%  | 68%  | 3%  |      |

※職歴不明の利用者を除く。

※合計には性別を登録していない利用者を含む。

■登録時の相談内容: 主要なもの3つ

|    | 働く意欲がない   | 今すぐ働けない<br>(家庭や疾患等) | 働く意味・目的<br>が分からない | アイデンティティ<br>の混乱 | キャリアに対する<br>不明確さ |
|----|-----------|---------------------|-------------------|-----------------|------------------|
| 女性 | 0件<br>0%  | 47件<br>39%          | 4件<br>3%          | 47件<br>39%      | 52件<br>43%       |
| 男性 | 17件<br>6% | 89件<br>31%          | 16件<br>6%         | 107件<br>38%     | 127件<br>45%      |
| 全体 | 17件<br>4% | 136件<br>34%         | 20件<br>5%         | 154件<br>38%     | 179件<br>44%      |

|    | 経歴・経験<br>による不安 | 就職活動の方法<br>が分からない | 労働環境・条件<br>への不安・恐怖 | 人間関係<br>への不安 | 職業スキル<br>への不安 |
|----|----------------|-------------------|--------------------|--------------|---------------|
| 女性 | 38件<br>31%     | 33件<br>27%        | 8件<br>7%           | 27件<br>22%   | 12件<br>10%    |
| 男性 | 71<br>25%      | 86<br>30%         | 37<br>13%          | 65<br>23%    | 18<br>6%      |
| 全体 | 109件<br>27%    | 119件<br>29%       | 45件<br>11%         | 92件<br>23%   | 30件<br>7%     |

| その背景 (当てはまるもの全てにフラグ) |             |            |               |                   |                |             |                  |
|----------------------|-------------|------------|---------------|-------------------|----------------|-------------|------------------|
|                      | 過重労働<br>の経験 | 職場の<br>いじめ | 対人トラブ<br>ルの経験 | 友人関係を持<br>ったことがない | 受験・就活<br>のつまずき | 学校で<br>のいじめ | 不登校・ひき<br>こもりの経験 |
| 女性                   | 8名<br>7%    | 5名<br>4%   | 20名<br>16%    | 5名<br>4%          | 14名<br>11%     | 15名<br>12%  | 44名<br>36%       |
| 男性                   | 28<br>10%   | 12<br>4%   | 52<br>18%     | 4<br>1%           | 75<br>27%      | 30<br>11%   | 97<br>34%        |
| 全体                   | 36件<br>9%   | 17件<br>4%  | 72件<br>18%    | 9件<br>2%          | 90件<br>22%     | 46件<br>11%  | 141件<br>35%      |

|    | 身体疾患<br>・障害 | 知的障害<br>(疑い) | 精神疾患・障害<br>・発達障害 | 障害者<br>手帳あり | 虐待        | その他<br>家庭問題 | 貧困・生活<br>保護 |
|----|-------------|--------------|------------------|-------------|-----------|-------------|-------------|
| 女性 | 9名<br>7%    | 5名<br>4%     | 55名<br>45%       | 10名<br>8%   | 5名<br>4%  | 22名<br>18%  | 8名<br>7%    |
| 男性 | 22名<br>8%   | 9名<br>3%     | 105名<br>37%      | 13名<br>5%   | 7名<br>2%  | 46名<br>16%  | 6名<br>2%    |
| 全体 | 32件<br>8%   | 14件<br>3%    | 163件<br>40%      | 23件<br>6%   | 12件<br>3% | 68件<br>17%  | 14件<br>3%   |

### Ⅲ 講座チラシ

働きづらさに悩むあなたに……

# ガールズ編

無料!

# パソコン+しごと準備講座

## 説明会

学校を出たら就職  
できるなんて、  
神話でした……

新しくスタートするガールズ講座です。

「子どものころから人間関係が苦手」「働けるかどうか不安」「職についてもなかなか続かない」「でも、なんとか自分の力でやっていきたい」「しごとにむけて体調を整え中」「パソコンができますと言えるようになりたい」……。そんなあなたのご参加をお待ちしています。



説明会では「しごとに役立つパソコン講座+しごと準備講座」(5/29より7/7まで平日、全16日間、詳細は裏面)の講座の内容、施設の環境や担当スタッフ、パソコンインストラクターを紹介します。よこはま若者サポートステーションなどのサポートを活用しながら、販売職で働き始めて1年になる方をお招きし、体験談もうかがいます。

★この講座は横浜市とマイクロソフト(株)がスポンサーとなり、応援しています。

**日時:4月30日(木) 13:30~15:00**

主催●(財)横浜市男女共同参画推進協会 共催●マイクロソフト(株)、横浜市 協力●全国女性会館協議会

対象・定員●15歳から35歳までのシングル女性25人

(シングルでもマザーの方には他の無料講座があります)

申込●電話、HPにて先着順。 [www.women.city.yokohama.jp/](http://www.women.city.yokohama.jp/)

電話:045-862-5141 ★会場と運営はいずれも横浜市の施設です。

会場●男女共同参画センター横浜(フォーラム)3階会議室 電話:045-862-5050

交通●JR・市営地下鉄戸塚駅西口より歩いて5分

「フォーラム 横浜」で検索してね★

地図

# ガールズ編 【本講座全16日間のご案内】

同じような悩みをかかえる仲間といっしょに、しごとに向けてゆっくりじっくり、あなたのペースで自信をつけていきましょう。

・・・☆ ・・・☆ ・・・☆ ・・・☆ ・・・☆ ・・・☆ ・・・☆ ・・・☆



しごとに役立つ  
(全9回)

## パソコン講座

ワード、エクセル、インターネット検索、ビジネスメールの基本をていねいにお伝えします。わからないことは何度でも、なんでもお聞きください。

「わかりやすい」と評判の女性講師3人体制です!

日時●5月29日(金)、6月1日(月)・2日(火)・4日(木)・5日(金)・8日(月)・9日(火)・11日(木)・12日(金)いずれも13:00~16:00

講師ONPO 法人ITスキルサポートフォーラム



(全7回)

## しごと準備講座

パソコン補習、自分の声で話す、からだほぐし・こころほぐし、自分に合った働き方と職種をさがす、先輩の体験談、メイク講座(㈱イオンフォレスト=ザ・ボディショップ提供)と履歴書用写真撮影、履歴書作成、交流会、など。心身の調子を整えながら、それぞれの専門家があなたのいいところを発見するお手伝いをいたします。

日時●6月18日(木)・23日(火)・26日(金)・30日(火)、7月2日(木)・3日(金)・7日(火)  
いずれも10:30~14:30

1-2 共通対象・定員●15歳から35歳までのシングル女性15人

(現在求職中で、ステップ1,2通して参加できる方優先。)

会場●男女共同参画センター(フォーラム)3階

申込●4月30日から専用申込書に記入の上、来館あるいは郵送にて受付。

申込書はHPよりダウンロードも可。5月20日必着。申込多数の場合抽選。

あて先●〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435-1 フォーラム 事業企画課

問合せ●電話:045-862-5141 Eメール:[kikaku@women.city.yokohama.jp](mailto:kikaku@women.city.yokohama.jp)

---

発行 (財)横浜市男女共同参画推進協会

244-0816 横浜市戸塚区上倉田町 435-1

男女共同参画センター横浜 内

電話 045-862-5141 事業企画課

Eメール [kikaku@women.city.yokohama.jp](mailto:kikaku@women.city.yokohama.jp)